

令和7年度第1回 藤沢市中学校給食検討委員会

日時 2025年（令和7年）5月30日（金）
午後3時から

場所 藤沢市役所本庁舎7階 7-3会議室

1 開会

2 委員自己紹介

3 委員長選出

4 議題

（1）藤沢市中学校給食検討委員会について

（2）本市の中学校給食の状況について

（3）アンケートの実施について

5 その他

6 閉会

以 上

（資料）

資料1 藤沢市中学校給食検討委員会設置要綱

資料2 学校給食法

資料3 中学校給食実施にあたっての基本方針

資料4 平成25年1月藤沢市中学校給食検討委員会～検討結果報告～

資料5 本市の中学校給食の状況について

資料6 令和6年度中学校給食アンケート結果

資料7 令和7年度中学校給食に関するアンケート（案）

藤沢市中学校給食検討委員会設置要綱

(目的及び設置)

第1条 藤沢市立中学校（以下「中学校」という。）に在籍する生徒の食をとりまく現状、中学校給食の現状と方向性その他の中学校給食における食育の課題整理などを行い、さらに今後の中学校給食について検討・協議を行い、具体的な方向性を示すことを目的として、藤沢市中学校給食検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 中学生をとりまく食の現状を資料、現地調査等で十分に検証し、課題や状況を理解し把握すること。
- (2) 中学校の学校給食のあり方について、他市の状況等を調査し、検討・協議を行うこと。
- (3) 調査した内容を十分に審議し、中学校給食のあり方について具体的な方向性を示すこと。
- (4) その他委員長が必要と認めた事項について、調査・検討・協議すること。

(組織)

第3条 委員会は、別表の委員をもって組織する。

(委員長及び職務代理)

第4条 委員会に委員長を1名置き、委員がこれを互選する。

- 2 委員長は、委員会を代表し、会務を総括する。
- 3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会の会議は、必要により委員長が招集する。ただし、この要綱の施行後最初の会議は、教育長が招集する。

- 2 委員会は、委員長を含め委員の3分の2以上の出席により成立する。
- 3 委員会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(任期)

第6条 委員長及び委員の任期は、令和7年5月30日から令和8年3月31日までとする。

(関係者の出席)

第7条 委員長は、必要と認める時は、事案に関係する者を委員会に出席させ、説明を求め、意見を聴く事ができる。

(事務局)

第8条 委員会に関する庶務は、学校給食課が行う。

(委任)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この要綱は、令和7年5月30日から施行する。

別表（第3条関係）

選出区分	人数
学識経験者	1人
藤沢市立小中学校校長会	2人
栄養教諭	1人
小中学校教諭	2人
保護者代表	2人

昭和二十九年法律第六十号

学校給食法

目次

- 第一章 総則（第一条—第五条）
- 第二章 学校給食の実施に関する基本的な事項（第六条—第九条）
- 第三章 学校給食を活用した食に関する指導（第十条）
- 第四章 雑則（第十一条—第十四条）

附則

第一章 総則

（この法律の目的）

第一条 この法律は、学校給食が児童及び生徒の心身の健全な発達に資するものであり、かつ、児童及び生徒の食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を果たすものであることにかんがみ、学校給食及び学校給食を活用した食に関する指導の実施に関し必要な事項を定め、もつて学校給食の普及充実及び学校における食育の推進を図ることを目的とする。

（学校給食の目標）

第二条 学校給食を実施するに当たっては、義務教育諸学校における教育の目的を実現するために、次に掲げる目標が達成されるよう努めなければならない。

- 一 適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図ること。
- 二 日常生活における食事について正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、及び望ましい食習慣を養うこと。
- 三 学校生活を豊かにし、明るい社交性及び協同の精神を養うこと。
- 四 食生活が自然の恩恵の上に成り立つものであることについての理解を深め、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 五 食生活が食にかかわる人々の様々な活動に支えられていることについての理解を深め、勤労を重んずる態度を養うこと。
- 六 我が国や各地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深めること。
- 七 食料の生産、流通及び消費について、正しい理解に導くこと。

（定義）

第三条 この法律で「学校給食」とは、前条各号に掲げる目標を達成するために、義務教育諸学校において、その児童又は生徒に対し実施される給食をいう。

2 この法律で「義務教育諸学校」とは、学校教育法（昭和二十二年法律第二十六号）に規定する小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校の前期課程又は特別支援学校の小学部若しくは中学部をいう。

（義務教育諸学校の設置者の任務）

第四条 義務教育諸学校の設置者は、当該義務教育諸学校において学校給食が実施されるように努めなければならない。

（国及び地方公共団体の任務）

第五条 国及び地方公共団体は、学校給食の普及と健全な発達を図るよう努めなければならない。

第二章 学校給食の実施に関する基本的な事項

（二以上の義務教育諸学校の学校給食の実施に必要な施設）

第六条 義務教育諸学校の設置者は、その設置する義務教育諸学校の学校給食を実施するための施設として、二以上の義務教育諸学校の学校給食の実施に必要な施設（以下「共同調理場」という。）を設けることができる。

（学校給食栄養管理者）

第七条 義務教育諸学校又は共同調理場において学校給食の栄養に関する専門的事項をつかさどる職員（第十条第三項において「学校給食栄養管理者」という。）は、教育職員免許法（昭和二十四年法律第四十七号）第四条第二項に規定する栄養教諭の免許状を有する者又は栄養士法（昭和二十二年法律第二百四十五号）第二条第一項の規定による栄養士の免許を有する者で学校給食の実施に必要な知識若しくは経験を有するものでなければならない。

（学校給食実施基準）

第八条 文部科学大臣は、児童又は生徒に必要な栄養量その他の学校給食の内容及び学校給食を適切に実施するために必要な事項（次条第一項に規定する事項を除く。）について維持されることが望ましい基準（次項において「学校給食実施基準」という。）を定めるものとする。

2 学校給食を実施する義務教育諸学校の設置者は、学校給食実施基準に照らして適切な学校給食の実施に努めるものとする。

（学校給食衛生管理基準）

第九条 文部科学大臣は、学校給食の実施に必要な施設及び設備の整備及び管理、調理の過程における衛生管理その他の学校給食の適切な衛生管理を図る上で必要な事項について維持されることが望ましい基準（以下この条において「学校給食衛生管理基準」という。）を定めるものとする。

2 学校給食を実施する義務教育諸学校の設置者は、学校給食衛生管理基準に照らして適切な衛生管理に努めるものとする。

3 義務教育諸学校の校長又は共同調理場の長は、学校給食衛生管理基準に照らし、衛生管理上適正を欠く事項があると認めた場合には、遅滞なく、その改善のために必要な措置を講じ、又は当該措置を講ずることができないときは、当該義務教育諸学校若しくは共同調理場の設置者に対し、その旨を申し出るものとする。

第三章 学校給食を活用した食に関する指導

第十条 栄養教諭は、児童又は生徒が健全な食生活を自ら営むことができる知識及び態度を養うため、学校給食において摂取する食品と健康の保持増進との関連性についての指導、食に関して特別の配慮を必要とする児童又は生徒に対する個別的な指導その他の学校給食を活用した食に関する実践的な指導を行うものとする。この場合において、校長は、当該指導が効果的に行われるよう、学校給食と関連付けつつ当該義務教育諸学校における食に関する指導の全体的な計画を作成することその他の必要な措置を講ずるものとする。

2 栄養教諭が前項前段の指導を行うに当たっては、当該義務教育諸学校が所在する地域の産物を学校給食に活用することその他の創意工夫を地域の実情に応じて行い、当該地域の食文化、食に係る産業又は自然環境の恵沢に対する児童又は生徒の理解の増進を図るよう努めるものとする。

3 栄養教諭以外の学校給食栄養管理者は、栄養教諭に準じて、第一項前段の指導を行うよう努めるものとする。この場合においては、同項後段及び前項の規定を準用する。

第四章 雑則

(経費の負担)

第十一条 学校給食の実施に必要な施設及び設備に要する経費並びに学校給食の運営に要する経費のうち政令で定めるものは、義務教育諸学校の設置者の負担とする。

2 前項に規定する経費以外の学校給食に要する経費（以下「学校給食費」という。）は、学校給食を受ける児童又は生徒の学校教育法第十六条に規定する保護者の負担とする。

(国の補助)

第十二条 国は、私立の義務教育諸学校の設置者に対し、政令で定めるところにより、予算の範囲内において、学校給食の開設に必要な施設又は設備に要する経費の一部を補助することができる。

2 国は、公立の小学校、中学校、義務教育学校又は中等教育学校の設置者が、学校給食を受ける児童又は生徒の学校教育法第十六条に規定する保護者（以下この項において「保護者」という。）で生活保護法（昭和二十五年法律第百四十四号）第六条第二項に規定する要保護者（その児童又は生徒について、同法第十三条の規定による教育扶助で学校給食費に関するものが行われている場合の保護者である者を除く。）であるものに対して、学校給食費の全部又は一部を補助する場合には、当該設置者に対し、当分の間、政令で定めるところにより、予算の範囲内において、これに要する経費の一部を補助することができる。

(補助金の返還等)

第十三条 文部科学大臣は、前条の規定による補助金の交付の決定を受けた者が次の各号のいずれかに該当するときは、補助金の交付をやめ、又は既に交付した補助金を返還させるものとする。

一 補助金を補助の目的以外の目的に使用したとき。

二 正当な理由がなくて補助金の交付の決定を受けた年度内に補助に係る施設又は設備を設けないこととなつたとき。

三 補助に係る施設又は設備を、正当な理由がなくて補助の目的以外の目的に使用し、又は文部科学大臣の許可を受けないで処分したとき。

四 補助金の交付の条件に違反したとき。

五 虚偽の方法によつて補助金の交付を受け、又は受けようとしたとき。

(政令への委任)

第十四条 この法律に規定するもののほか、この法律の実施のため必要な手続その他の事項は、政令で定める。

附 則

この法律は、公布の日から施行する。

附 則 （昭和三十一年三月三〇日法律第四一号）

中学校給食実施にあたっての基本方針

平成 2 5 年 8 月

藤沢市教育委員会

はじめに

藤沢市中学校給食検討委員会（以下「検討委員会」という）の検討結果報告にありますように、一部の中学生は偏った食事により、成長期に必要とされる栄養素が不足していると考えられます。

また、近年、朝食欠食など食生活の乱れや肥満・痩身傾向など、子どもたちの健康を取り巻く問題が深刻化しています。このため、成長期の中学生にとって栄養のバランスがとれた健全な食生活を送ることが重要となっています。

国においては平成20年6月に学校給食法を改正し、従来の目的である学校給食の普及充実に加え、学校における食育の推進を新たに規定しています。日常生活における食事について正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、子どもたちの望ましい食習慣を養うため、学校給食を生きた教材として、学校において食育を推進していくうえで重要なものと位置づけています。

一方、女性の社会進出の増加やひとり親家庭など保護者の事情から、弁当を作ることに負担を感じている家庭があると考えられます。

このようなことから、教育委員会といたしましては、検討委員会の検討結果報告にありますように中学校において給食実施が必要と考え、ここに中学校給食実施にあたっての基本方針を策定します。

1. 実施目的

(1) 栄養バランスのとれた食事の提供

成長期にある生徒に対し、市の栄養士が文部科学省の学校給食実施基準に定める栄養量に基づいた献立により調理された栄養バランスのとれた食事を提供することにより、健康の保持増進を図ります。

(2) 望ましい食習慣の育成

給食を通して正しい食事についての理解を深め、健全な食生活を営むことが出来る判断力を培い、望ましい食習慣を養います。

(3) 明るい社交性と共同の精神の醸成

ともに学ぶ生徒達と一緒に食事をする事で、学校生活をより豊にし、明るい社交性を育み、配膳当番などを通して共同の精神を養います。

(4) 給食を通しての食育の推進

市の栄養士が作成する献立に地域の食材や、季節を感じさせる料理などを取り入れたり、給食だよりの配布や献立の内容を生徒に紹介することにより、食生活が自然の恩恵の上に成り立ち、食に関わる様々な人々の活動に支えられていることを学ぶとともに、地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深めるよう食育の推進を図ります。

(5) 家庭に対する配慮

様々な家庭の事情により、弁当を作ることが負担或いは難しいと感じている家庭や、夏場に弁当を作ることによる不安を持っている家庭に配慮します。

2. 実施方法

給食実施に際しては、様々な課題あります。

食物アレルギーを持つ生徒が増えるなか、学校給食時の誤飲食による事故が発生していることから、正確なアレルゲン情報を保護者に提供するとともに、食物アレルギーのため家庭からの弁当持参を希望する生徒・保護者の意向に配慮する必要があります。

家庭からの弁当持参は、長年藤沢市の中学校生活の基本として広く定着していることから、弁当を通して子どもとの関わりを持ち続けたいと希望する保護者に配慮する必要があります。

また、平成24年度に中学校において新学習指導要領が全面実施されたことに伴い授業時間数が増加しており、日課表に配膳、片づけの時間を確保することが非常に厳しい状況があります。

さらに、本市の喫緊の課題である新庁舎建設をはじめ、公共施設の老朽化対策、社会保障費の増加、災害に対する備えなど、財政面も考慮する必要があります。

このような課題を踏まえて、中学校給食を早期に実施する方法としては、市の栄養士が作成した献立に従って民間施設で業者が調理し、弁当箱に詰めて学校に配送するデリバリー方式の給食と家庭からの弁当持参の選択制とします。

(1) 献立作成

成長期の中学生に必要な栄養バランスに考慮して、学校給食実施基準に基づき市の栄養士が献立を作成し主食・副食・牛乳で構成する完全給食（注1）とします。

(2) 食材の発注

市の栄養士が食材の指定をし、添加物や農薬、放射能などに配慮した安全安心な給食を提供します。

（３）調 理

給食は万全な衛生対策を講じた民間事業者の調理場で調理し、主食・副食それぞれ食器（ランチボックス）に盛りつけ、専用の配送ケースに入れて各学校に配送します。

（４）衛生管理

安全安心な給食を提供するため、文部科学省の学校給食衛生管理基準などに基づき市の栄養士が民間事業者に対して衛生管理指導を行います。

（５）配膳室の整備

安全性・衛生面を考慮し、給食の搬入保管のため各中学校の状況に応じた配膳室を整備します。

また、配膳室には給食の受け入れ、クラス毎の配膳準備、容器の回収等ため配膳員を配置します。

（６）給食回数

給食実施回数は年間１８０回を標準として学校の行事等を考慮して、各学校で定めるものとします

（７）給食費

給食に要する経費は学校給食法に基づき食材料費のみを利用者負担とし、それ以外の施設整備費、人件費等については市の負担とします。給食費の１食あたりの単価は実施時まで定めます。

なお、給食を安定的に提供するため、給食費の納付は前納制とします。

（８）給食の予約システム

選択制の給食のため、利用者の利便性を考慮してパソコンや携帯電話、マークシートにより一定期間前までに希望する日を選んで申込み

をする予約システムを導入します。

(注1) 学校給食法施行規則第一条

- 2 完全給食とは、給食内容がパン又は米飯（これらに準ずる小麦粉食品、米加工食品その他の食品を含む。）ミルク及びおかず等である給食をいう。

3. 実施スケジュール

平成26年度に一部の中学校での試行に向けて関係部門等と協議してまいります。

その後、日課表への影響など試行の状況を検証したうえで、改めて中学校の給食について検討してまいります。

2013年 1月31日
政 策 会 議 資 料

藤 沢 市 中 学 校 給 食 検 討 委 員 会 検 討 結 果 報 告 (概 要 版)

(設置目的)

中学校に在籍する生徒の食を取りまく現状を把握するとともに、中学校給食における食育の課題整理、さらに今後の中学校給食について検討・協議を行う。

(中学校の昼食に対する意識アンケート調査)

- ・調査期間:2012 年(平成 24 年)7 月 10 日～7 月 20 日
- ・回収状況

小学校(16校6年生1クラス)	523 人
中学校(18校2年生1クラス)	625 人
小学校保護者(アンケート実施した6年生の保護者)	444 人
中学校保護者(アンケート実施した2年生の保護者)	460 人
中学校教師(18校2年生担任)	47 人
計	2,099 人

・アンケート調査結果

■学校で授業のある日に食べる昼食はどちらが多いですか

	中学2年生 (問1)回答 624 人	
家庭から持ってくる弁当	606 人	97.0%
コンビニや学校販売の弁当・パン	18 人	2.9%

■学校での昼食時間の長さはどうか

	中学2年生 (問2)回答 624 人	
短い	336 人	53.8%
ちょうどよい	268 人	42.9%
長い	20 人	3.2%

■ 中学校での昼食はどの方法が良いですか

	小学6年生 (問1) 回答 523 人		中学2年生 (問3) 回答 624 人		小学生保護者 (問1) 回答 444 人		中学生保護者 (問1) 回答 460 人		中学校教師 (問1) 回答 47 人	
家庭からの弁当持参を基本とする方法	160 人	30.6%	194 人	31.0%	21 人	4.7%	52 人	11.3%	30 人	63.8%
学校給食方式	120 人	22.9%	245 人	39.2%	318 人	71.6%	307 人	66.7%	4 人	8.5%
全員が弁当箱方式(デリバリー方式)	68 人	13.0%	40 人	6.4%	42 人	9.5%	32 人	7.0%	1 人	2.1%
家庭からの弁当持参か、弁当箱方式(デリバリー方式)の選択制	175 人	33.5%	145 人	23.2%	63 人	14.2%	69 人	15.0%	12 人	25.5%

(給食実施方法について比較検討)

中学校給食実施市の実施方法としては、主に単独校方式、センター方式、デリバリー方式があります。

・単独校方式

市の小学校と特別支援学校で実施している方式です。特徴といたしましては、校内で給食を調理するので学校行事などへのきめ細かい対応や食育指導やアレルギー対応が行いやすいなどの反面、調理場の建設など初期投資が最も高額となり、校内に建設用地を確保できない学校があることや、中学校における昼食の時間が短いと感じている生徒が多い中、配膳や片付けなど日課表に与える影響が大きいなどの課題があります。

・センター方式

単独校方式よりも少ない初期投資で完全給食が実施でき、一定のアレルギー対応も行える反面、センター建設地の確保と学校側の配膳室の工事などが必要になってまいりますし、単独校方式と同様に日課表への影響の問題も有ります。

・デリバリー方式

最も経費がかからず、全校実施もそれほど時間がかからず実施することができますが、食中毒などのリスクが大きいこと、喫食まで時間がかかることなどや、実施する際に「学校給食衛生管理基準」を満たす業者の確保等の課題があります。

(まとめ)

中学校における給食につきましては、成長期にある生徒にとっては栄養のバランスのとれた安全安心な食を摂取できる重要な機会であり、国や本市の食育推進計画においても給食を通した食育指導が望ましいとしております。

一方、実施方式の比較検討でもありましたように、それぞれの方式についてメリット・デメリットがあり、検討委員会としては最終的に一つの方法には絞りませんでした。が、ライフスタイルの多様化など社会情勢が複雑になる中、中学校で栄養バランスのとれた食育に結びつくような給食が実施されることが望ましいと結論に至りました。

このため、本市教育委員会において中学校給食を実施するにあたっては、子どものことを第一に考えたうえで、中学校現場の意見に充分配慮して、食指導の実践の場となるよう希望します。

藤沢市中学校給食検討委員会 委員名簿(平成 24 年度)

	選出区分	役 職	氏 名
1	学識経験者	神奈川県立保健福祉大学 教授	山本 妙子
2	藤沢市立小中学校校長会	高浜中学校長	中村 浩幸
3		大越小学校長	藤田由利子
4	栄養職員	大清水小学校 栄養教諭	椿 恵美子
5	小中学校教諭	高倉中学校 教諭	奥井 隆夫
6		御所見小学校 教諭	三國 仁史
7	PTA連絡協議会	会長	岩野 妙子
8		副会長	田中 孝史
9	市職員の代表	(第 8 回まで)	吉澤 宏直
		(第 9 回より)	丸田 秀
10	教育総務部長		桑山 光生
11	教育総務課長		中島 徳幸
12	教育指導課長		高石佳久子
13	学務保健課長		吉住 潤

藤沢市中学校給食検討委員会

～検討結果報告～

2013 年(平成 25 年)1 月

目 次

はじめに	P1
第1章 藤沢市の中学校給食の現状	P2
第2章 子どもたちの「食」を取りまく現状	P5
第3章 中学校の昼食に対する意識アンケート調査	P9
第4章 給食実施方法について比較検討	P16
1 単独校方式	
2 センター方式	
3 デリバリー方式	
第5章 まとめ	P18
おわりに	P20
(参考資料)	
・藤沢市中学校給食検討委員会設置要綱	P22
・藤沢市中学校給食検討委員会委員名簿	P24
・藤沢市中学校給食検討委員会開催経過	P26
・中学校の昼食に対する意識アンケート調査表	P28
・給食実施方法の比較	P36

はじめに

「藤沢市中学校給食検討委員会」は、藤沢市立中学校に在籍する生徒の「食」をとりまく現状、中学校給食の現状と方向性など中学校給食における食育の課題整理などを行い、さらに今後の中学校給食について検討・協議を行うことを目的とし設置されました。昨年には藤沢市の学校給食の状況や子どもたちの「食」を取りまく現状などについて、中間報告として取りまとめました。

今年度の検討委員会では、小学生や中学生とその保護者や教師に対してアンケート調査を行うとともに、給食実施方法について比較検討などを行い、このたび検討結果報告として取りまとめました。

第1章 藤沢市の中学校給食の現状

1 藤沢市の学校給食の沿革

藤沢市の学校給食は、第二次世界大戦後の1947年(昭和22年)2月から連合軍及びララ委員会*1からの脱脂粉乳、その他の援助物資により、小学校5校で単独調理方式の給食が実施されるようになりました。

*1 ララ委員会・ララは、Licensed Agencies for Relief in Asia (アジア救援公認団体)の略称である。1946年4月、第二次世界大戦で困窮に陥ったアジア、特に「日本・朝鮮及び沖縄の人びとの救済事業を行うことを目的に、全米の各種宗教団体を中心とする海外事業運営篤志団アメリカ協議会(American Council of Voluntary Agencies for Foreign Service, Inc.)を親団体として結成された。

その後、国では1954年(昭和29年)6月に学校給食法が公布され、小学校における単独調理方式の完全給食が全国で実施されました。本市では1964年(昭和39年)10月まで、学校の開校と同時に単独調理方式の給食を実施しており、全15校で給食を実施していました。

中学校においても、1964年(昭和39年)4月から、当時の市内全校、9校でミルク給食を開始しました。

その後人口の増加に伴い、小学校を次々に新設していきましたが、1967年(昭和42年)3月に北部学校給食センター(9,000食規模)を開設し、給食はセンター方式の完全給食となりました。北部学校給食センターは、小学校6校に給食を提供していましたが、同年6月からは、六会中学校、長後中学校、御所見中学校も対象校として、給食を実施することになりました。

小学校の新設は続きましたが、給食はセンター方式として、1971年(昭和46年)に南部学校給食センター(7,000食規模)、1974年(昭和49年)に善行学校給食合同調理場(5,000食規模)、1976年(昭和51年)に西部学校給食合同調理場(5,000食規模)を開設しました。新設された各調理場は、小学校を中心に給食を提供していましたが、近隣の中学校にも給食を提供しました。南部学校給食センターからは湘洋中学校へ、善行学校給食合同調理場からは、1976年(昭和51年)4月に開校した善行中学校へ、西部学校給食合同調理場からは、御所見中学校と新たに秋葉台中学校に給食を提供しました。このことにより、当時市内に12校あった中学校のうち、7校が完全給食実施校になりました。

給食実施校		給食未実施校	
1	六会中学校	1	第一中学校
2	御所見中学校	2	明治中学校
3	湘洋中学校	3	鵠沼中学校
4	長後中学校	4	片瀬中学校
5	高浜中学校	5	藤ヶ岡中学校
6	善行中学校		
7	秋葉台中学校		

(1976年(昭和51年)4月の給食実施状況)

2 中学校給食中止の経緯

1979 年(昭和 54 年)藤沢市新総合計画で、小学校の給食については、単独調理方式で進める方針が打ち出されました。同年 4 月現在で小学校 28 校中 14 校が給食センターから給食を提供されており、人口の増加に伴う新設校の開設と単独調理場建設に向け、多額な教育整備予算の支出が予想されました。

そのような状況の中、藤沢市の学校給食のあり方について検討がなされ、基本方針が示されました。

- ① 小学校の学校給食は単独調理方式で進めるとともに、給食内容の改善を図ります。
- ② 中学校給食については、中学校教育全体からみてこれを中止し、今日特に要請の強い自主活動(課外活動)に必要な施設、整備、教育内容の充実に向かって政策の転換を図ります。

この結果、中学校給食検討委員会が設置され、その議論の結果を受け、中学校給食は次のような理由から中止になりました。

(1) 残菜の増加

給食時間が短く食べきれない、一部女子の過度な瘦身思考で給食を残すなどの理由により、小学校に比べると明らかに残菜が多く、給食を続けていくほど残菜が増えていくことが見込まれる。

(2) 授業時間に差が出る

給食実施校では、配膳に時間がかかるため、昼食時間を 31 分取っており、未実施校の 16 分に比べ、15 分長くなっていました。この差を埋めるため 1 時限あたりの授業時間が 45.7 分と未実施校の 48.3 分に比べると 2.6 分短くなっており、1 日 6 時限あるとすると、15.6 分授業時間が短くなるなど、日課表に差が出ていました。(時間は平均)

(3) 未実施校での給食実施が見込めない

小学校の単独校化、小学校・中学校の新設に多額の経費が掛かり、既存の給食未実施校や新設の中学校での給食の実施が見込めず、市内で給食実施、未実施の格差が生じることが予想される。

以上のような理由から、藤沢市における中学校での完全給食は、1980 年(昭和 55 年)3 月で中止となり、同年 4 月からはすべての中学校でミルク給食となりました。

3 中学校での弁当販売について

完全給食終了後、各中学校での昼食は家庭からの弁当持参が原則となりました。

その後、経済、社会情勢の大きな変化や、また、核家族化や女性の社会参加など、それぞれの家庭を取りまく環境に変化が見られるようになりました。

そのような状況の中、家庭からの弁当持参以外の昼食の提供を望む声が聞かれるようになりました。

そこで、2002年(平成14年)11月から検討委員会を開催し、2003年(平成15年)2学期から家庭からの弁当持参が困難な家庭の補完事業として、中学校での弁当販売を開始することになりました。

この事業は、弁当販売を希望する学校で弁当製造業者が当日の朝注文を受付け、昼食時間に生徒に手渡しをするという形態で始まりました。

弁当の品質管理及び衛生管理については仕様書で定めていますが、献立や食材の仕入れなどは弁当製造業者独自の方法となっています。

導入から約10年が経過しましたが、この間販売個数が伸び悩み、弁当の受付の人件費や輸送経費が確保できないとの理由で業者の撤退が相次ぎました。

2012年度(平成24年度)は19校中10校で弁当販売を実施していますが、注文や発注などは各中学校の協力で実施しているのが現状となっています。

最近3年間の一日当たりの利用率は、次のとおりとなっています。

年 度	利用率
2009年度(平成21年度)	2.81%
2010年度(平成22年度)	2.79%
2011年度(平成23年度)	3.07%

4 全国・県内の中学校給食の実施状況

2010年度(平成22年度)の中学校における完全給食実施率の全国平均は82.4%ですが、神奈川県は16.4%と大阪府に次いで低い実施率となっています。

また、県内においては、19市中8市が完全給食を行っています。

さらに、2011年度(平成23年度)からは、相模原市の完全給食を実施していない中学校や海老名市において、デリバリー方式の中学校給食を導入しています。

第2章 子どもたちの「食」を取りまく現状

1 子どもたちの「食」の現状

2009 年度(平成 21 年度)国民健康・栄養調査の結果から児童・生徒の食の現状について次のようなことが見えています。

- ① 食塩摂取量は成人平均で 1 日 10.7g(男性 11.6g・女性 9.9g)で、前年に比べ減少していますが、日本人の食事摂取基準(2010 年度(平成 22 年度)版)の男性 9g 未満、女性 7.5g 未満よりは高くなっています。また、7～14 歳は摂取量が 9.3g となっています。
- ② 脂肪エネルギー比率では、摂取基準が 20～30%のところ、30%以上の者の割合は成人男性で 20%、成人女性で 27.6%となっています。7～14 歳では脂肪エネルギー比率は平均で 29.2%(学校給食摂取基準は摂取エネルギー全体の 25～30%)です。
- ③ カルシウムは 7～14 歳 648 mg、鉄分は 6.9g でいずれも必要量を下回っています。
- ④ 食物繊維については、7～14 歳 13.2g、15～19 歳は 12.8g となり、加齢での摂取減少がみられます。
- ⑤ 野菜の摂取量は成人平均 295.3g で 7～14 歳では 240.1g で、健康日本 21^{*1} が定める目標量 350g を下回っています。

*1 健康日本 21・・・壮年期死亡の減少、健康寿命の延伸及び生活の向上の実現を目的として生活習慣の改善などに反する課題について目標値を設定し国民が一体となって取り組む健康づくり運動で、2000 年度(平成 12 年度)から 2012 年度(平成 24 年度)までが運動期間になっている。

- ⑥ 習慣的に朝食をほとんど食べない人は、男性 10.7%、女性 6.0%、男女ともに 20 歳代・30 歳代で比率が高くなっています。習慣的に朝食をとらない人のうち、その習慣が「小学校」または「中学・高校」の頃から始まった人は、男性 6.4%・26.3%、女性 6.3%・18.9%となっています。

男女とも加齢に伴い朝食を食べる割合は減少する傾向にあり、14 歳頃には 5 人に 4 人程度になっています。朝食を毎日食べない人の割合は 10 歳以降から増加し始め、女子に比べて男子の方が強く表れています。

また、藤沢市地域保健課が 2007 年度(平成 19 年度)に行った「食生活に関するアンケート」調査から、朝食については次のような結果が出されています。

朝ごはんを食べて いますか	小学校 6年生 384人		中学校 2年生 680人		朝ごはんを誰と食 べますか	小学校 6年生 384人		中学校 2年生 680人	
毎日食べる	324人	84.4%	573人	84.4%	家族全員	61人	15.9%	68人	10.0%
食べる日が多い	39人	10.2%	54人	7.9%	大人もいるが全員 ではない	188人	49.0%	238人	35.0%
食べない日が多い	14人	3.6%	33人	4.9%	子どもだけで	80人	20.8%	122人	17.9%
ほとんど食べない	7人	1.8%	20人	2.9%	ひとりで	55人	14.3%	252人	37.1%

(調査対象: 小学校 6 年生 409 人/回答率 93.9% 中学校 2 年生 705 人/回答率 96.5%)

以上のことから、中学生を取りまく食生活の状況として次のとおりまとめることができます。

- ① 脂肪エネルギー比率が高い傾向にある
- ② 食塩の摂取量が高い傾向にある
- ③ カルシウム・食物繊維の摂取量が基準値に達していない
- ④ 朝食欠食の習慣化が始まる年齢層にある
- ⑤ 肥満とやせの両方の傾向がみられる
- ⑥ 野菜類の摂取不足

などが挙げられます。

同時にこれらは生活習慣病危険因子の栄養素、食物レベルでの危険要因にもなっています。

2 学校、保育所、地域社会等とともに家庭における「共食」の実践

「共食」とは、家族や友人などとともに食卓を囲んで一緒に食事をとりながらコミュニケーションを図ることを言います。小、中学生を対象とした調査(2007年度(平成19年度)児童生徒の食事状況調査・独立行政法人日本スポーツ振興センター)によっても朝食を一人で食べる割合は小学生 11.4%、中学生 30.4%とあります。

多様化している社会状況の中、食卓を家族が共にする共食の時間を確保するのは難しい現状もあります。しかし、家族の生活時間の違いから一人で食事をする「孤食」や、家族と一緒に食卓に座っていてもそれぞれが好きな料理を好きなように食べる「個食」、好きなものだけを食べて嫌いなものは食べようとしない「固食」などの状況が長く続くと、バランスのよい食事の摂取や基本的な生活習慣の確立、マナーの習得といったことに支障をきたすのではないかとされています。

また 20 歳以上の男女を対象とした別の調査では、「共食」がもたらす意義として、

- ① 家族のコミュニケーションを図ることができる
- ② 楽しく食することができる
- ③ 規則正しい時間に食することができる
- ④ 栄養バランスのよい食事を食することができる
- ⑤ 安全・安心な食事を食することができる
- ⑥ 食事マナーを身につけることができる

などの点が指摘されています。

(出典・内閣府「食育の現状と意義に関する調査・2010 年(平成 22 年)12 月」)

個人のライフスタイルや家庭の様態が多様化する中で、一律に推進することの難しさと、「個食」「孤食」「固食」などがもたらすデメリットと「共食」がもたらすメリットを考える必要があります。

子どもたちが健やかに成長していく目的を含めた「食育基本法」が 2005 年度(平成 17 年度)に制定され、その後、食育推進基本計画が作成されました。

私たちは日々食べ物を食べて生きていますが、それが自分の体に消化吸収された結果についてはすべてを把握し、目に見えているわけではありません。今日食べても、今日食べなくても明日の自分の命や健康に即、大きな変化があるわけでもありません。しかし、自分の体や今生きている力、これからの踏ん張りやチャレンジする力は、これまでに積み重ねてきた食べ物が作り出す力だと言えます。

食えるということは、「未来の自分」が健康でいられるかどうかを日々決めている大切な営みだということを自覚し、いろいろな食べ物の中から、自分自身が必要な食べ物を必要な量だけ摂取することを学んでいくことが望まれます。成長期の子どもたちにとって、毎日の食事は、将来を保障する手形だといっても過言ではないと考えます。

また、藤沢市には「生涯健康！ふじさわ食育プラン」があります。これは藤沢市の食育推進計画で、下記の 4 つの目標から成り立っています。

- 目標 1 健康に生活するための食習慣をつくる
- 目標 2 市民が主役となって食育を推進する
- 目標 3 食文化や食べ物を大切にする気持ちを育てる
- 目標 4 健康な生活を送るための食環境をつくる

この目標を達成するため学校としての役割は、

- ① 給食や学習時間を通じ、児童生徒の望ましい食習慣を習得するための指導
- ② 教育ファーム^{*1} の積極的な取り組み

の推進が挙げられています。

*1 教育ファーム・・・生活の時間や総合的な学習の時間に地域の協力を得るなどして、米や野菜の収穫栽培など体験的な学習を行う。

また、家庭での役割としては

- ① 望ましい生活のリズムや食習慣の習得
 - ② 食べる楽しさを知る
 - ③ 料理をする楽しさを知る
 - ④ 食の大切さについて理解を深める
- とされています。

これらを踏まえた中で、子どもたちが将来にわたって健康に生活していくことができるよう、導いていくことが重要となります。

第3章 中学校の昼食に対する意識アンケート調査

1 調査の目的

藤沢市の中学校では、以前7校で給食センターから配送される給食を提供していましたが、給食時間の問題や未実施校との関係などにより、1980年(昭和55年)3月で中止となり、現在までミルク給食と家庭からの弁当持参を基本とする昼食となっています。

こうしたなか、近年、食生活や食習慣に変化がみられ「食」に対する考え方が見直され、健全な心身を培い、豊かな人間性をはぐくむための食育を推進することが重要となっており、その一環として学校給食を通じて児童生徒の望ましい食習慣を習得するための指導も期待されています。

また、各家庭におけるライフスタイルの多様化などから、中学校給食を希望する声も多くなってきました。

このため、藤沢市中学校給食検討委員会において、中学校の昼食の方向性を考えるうえで、児童生徒や保護者の考えを実際に確認し、検討の基礎資料とするためにアンケート調査を実施しました。

2 アンケート調査実施状況

- (1) 調査方法: 児童・生徒に対しては各学校において実施し、保護者に対しては学校を通じて配布・実施・回収を行った。
- (2) 調査期間: 2012年(平成24年)7月10日～7月20日
- (3) 回収状況

小学校(16校6年生1クラス)	523人
中学校(18校2年生1クラス)	625人
小学校保護者(アンケート実施した6年生の保護者)	444人
中学校保護者(アンケート実施した2年生の保護者)	460人
中学校教師(18校2年生担任)	47人
計	2,099人

3 調査結果の注意事項

- (1) 回答の中に、各質問項目において未記入等の箇所があることから、各質問における総数と有効回答数が合致しない場合がある。
- (2) 比率については、小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100%とならない場合がある。
- (3) 複数回答を求めた質問では、回答者数を基数として回答率を算出しているため、比率の合計は100%を超える。

4 アンケート調査結果

■学校で授業のある日に食べる昼食はどちらが多いですか

	中学2年生 (問1)回答 624 人	
家庭から持ってくる弁当	606 人	97.0%
コンビニや学校販売の弁当・パン	18 人	2.9%

- ・コンビニや学校販売の弁当・パンを食べていることが多い生徒の比率は約3%であり、当初予想していたよりも少なかった。
- ・コンビニや学校販売の弁当・パンを食べていることが多い生徒の18人のうち男子は10人、女子7人、性別不明1人。

■学校での昼食時間の長さはどうですか

	中学2年生 (問2)回答 624 人	
短い	336 人	53.8%
ちょうどよい	268 人	42.9%
長い	20 人	3.2%

- ・藤沢市立の各中学校では、昼食時間について15分を確保しているが、男子53.8%、女子52.6%とほぼ同じ割合で昼食時間を短いと感じている。

■中学校での昼食はどの方法が良いですか

	小学6年生 (問1) 回答 523 人		中学2年生 (問3) 回答 624 人		小学生保護者 (問1) 回答 444 人		中学生保護者 (問1) 回答 460 人		中学校教師 (問1) 回答 47 人	
家庭からの弁当持参を基本とする方法	160 人	30.6%	194 人	31.0%	21 人	4.7%	52 人	11.3%	30 人	63.8%
学校給食方式	120 人	22.9%	245 人	39.2%	318 人	71.6%	307 人	66.7%	4 人	8.5%
弁当箱方式(全員)	68 人	13.0%	40 人	6.4%	42 人	9.5%	32 人	7.0%	1 人	2.1%
家庭からの弁当持参か、弁当箱方式の給食を選択できる方法	175 人	33.5%	145 人	23.2%	63 人	14.2%	69 人	15.0%	12 人	25.5%

※現在、小学校で実施している給食を学校給食方式としている。

※便宜上デリバリー方式を弁当箱方式としている。

- ・小学生・中学生を合計すると家庭からの弁当持参を基本とする方法が良いと答えた人数(354人30.8%)と学校給食方式が良いと答えた人数(365人31.8%)とほぼ同数となる。
- ・家庭からの弁当持参を基本とする方法と、家庭からの弁当持参か弁当箱方式の給食を選択できる方法を合算すると、小学生は64.1%、中学生は54.2%と過半数を超える。
- ・小中学生のうち女子の34.4%は家庭からの弁当持参を基本とする方法が良いとしている。(中学生男子は27.6%)
- ・中学生のうち男子の40.1%は学校給食方法が良いとしている。(中学生女子は37.7%)
- ・保護者については、小学校、中学校を問わず圧倒的に学校給食方式が良いとしている。

■家庭からの弁当持参を基本する方法が良い理由は (複数回答)

	小学6年生 (問2) 回答 160 人		中学2年生 (問4) 回答 194 人	
好みや量が調整できるから	138 人	86.3%	138 人	71.1%
美味しいから	84 人	52.5%	91 人	46.9%
作った人の気持ちを感じるから	38 人	23.8%	37 人	19.1%
食物アレルギーがあるから	15 人	9.4%	18 人	9.3%
栄養のバランスが良いから	29 人	18.1%	39 人	20.1%
配膳をしなくてよいから(給食当番をやらなくて良いから)	65 人	40.6%	63 人	32.5%
小学校と違う方が良いから	64 人	40.0%		

- ・家庭からの弁当持参を基本とする方法が良いと回答した小学生のうち女子の89.4%が好みや量が調整できるからを理由として選んでいる。(小学生男子は83.1%)
- ・同じく小学生のうち女子の55.3%が美味しいからを理由として選んでいる。(小学生男子は49.3%)
- ・家庭からの弁当持参を基本する方法が良いと回答した中学生のうち女子の77%が好みや量が調整できるからを理由として選んでいる。(中学生男子は64%)

- ・同じく中学生のうち女子の51%が美味しいからを理由として選んでいる。(中学生男子は39.5%)
- ・家庭からの弁当持参を基本する方法が良いと回答した児童生徒及びその保護者の7割以上が好みや量が調整できるからを理由として選んでいる。

	小学生保護者 (問2) 回答 21 人		中学生保護者 (問2) 回答 52 人	
子どもに合わせて好みや量が調整できるから	17 人	81.0%	41 人	78.8%
美味しいから	1 人	4.8%	7 人	13.5%
子どもに弁当を作ってあげたいから	8 人	38.1%	19 人	36.5%
子どもにアレルギーがあるから	0 人	0.0%	5 人	9.6%
栄養のバランスが良いから	1 人	4.8%	5 人	9.6%
子どもの様子が分かるから	11 人	52.4%	31 人	59.6%

- ・家庭からの弁当持参を基本する方法が良いと回答した中学生の保護者のうち女子生徒の保護者の73.1%が子どもの様子が分かるからを理由に選んでいる。(男子生徒の保護者は45%)
- ・家庭からの弁当持参を基本する方法が良いと回答した小・中学生の保護者は美味しいからとの理由を選んだ割合が小・中学生の比べて極端に少ない。また、栄養のバランスが良いからとの理由も同様である。

	中学校教師 (問2) 回答 30 人	
弁当を作るのは子どものために良いと思うから	18 人	60.0%
生徒の好みや量を調整できるから	17 人	56.7%
昼食指導の時間が短縮できるから	21 人	70.0%
今の方法に特に問題がないから	11 人	36.7%

■学校給食方式が良い理由は（複数回答）

	小学6年生 (問3) 回答 120 人		中学2年生 (問5) 回答 245 人	
小学校と同じ方式だから	23 人	19.2%	30 人	12.2%
小学校の給食が好きだから	55 人	45.8%	105 人	42.9%
全員が同じ給食を食べるから	35 人	29.2%	24 人	9.8%
栄養のバランスが良いから	86 人	71.7%	112 人	45.7%
弁当を作る負担がないから(家で弁当を作らなくてよいから)	76 人	63.3%	132 人	53.9%
弁当を持ってこなくて良いから	61 人	50.8%	159 人	64.9%

- ・学校給食方式が良いと回答した保護者は、栄養のバランスが良いとの理由が最も多いが、中学生は弁当を持ってこなくて良いからとの理由が最も多い。
- ・学校給食方式が良いと回答した中学生のうち、弁当をもってこなくて良いからを理由として選んだ人数は、男子76人女子79人でほぼ同数だった。

	小学生保護者 (問3) 回答 318 人		中学生保護者 (問3) 回答 307 人		中学校教師 (問3) 回答 4 人	
全員が同じ給食を食べるから	113 人	35.5%	95 人	30.9%	4 人	100%
栄養のバランスが良いから	284 人	89.3%	281 人	91.5%	4 人	100%
弁当を作る負担がないから	222 人	69.8%	200 人	65.1%	2 人	50.0%
子どもが給食が好きだから	129 人	40.6%	98 人	31.9%		

- ・学校給食方式が良いと回答した保護者のうち、その理由としては栄養のバランスが良いからが最も多い。
- ・学校給食方式が良いと回答した保護者の7割近くが、弁当を作る負担がないからを理由として選んでいる。

■ 全員が弁当箱方式の給食が良い理由は（複数回答）

	小学6年生 (問4) 回答 68 人		中学2年生 (問6) 回答 40 人	
全員が同じ給食を食べるから	22 人	32.4%	8 人	20.0%
栄養のバランスが良いから	48 人	70.6%	26 人	65.0%
弁当を作る負担がないから(家で弁当を作らなくてよいから)	55 人	80.9%	32 人	80.0%
配膳や片付けが楽そうだから	39 人	57.4%	15 人	37.5%
弁当を持ってこなくて良いから	42 人	61.8%	26 人	65.0%

- ・ 全員が弁当箱方式の給食が良いと回答した小中学生のいずれも、弁当を作る負担がないからの理由が最も多い。

	小学生保護者 (問4) 回答 42 人		中学生保護者 (問4) 回答 32 人		中学校教師 (問4) 回答 1 人	
全員が同じ給食を食べるから	22 人	52.4%	12 人	37.5%	0 人	-
栄養のバランスが良いから	32 人	76.2%	25 人	78.1%	0 人	-
弁当を作る負担がないから	30 人	71.4%	24 人	75.0%	0 人	-
昼食指導の時間が短縮できるから					0 人	-

■家庭からの弁当持参か、弁当箱方式の給食を選択出来る方法が良い理由は
(複数回答)

	小学6年生 (問5) 回答 175 人		中学2年生 (問7) 回答 145 人	
弁当を都合に合わせて注文できるから	142 人	81.1%	121 人	83.4%
栄養のバランスが良いから	46 人	26.3%	30 人	20.7%
弁当を作る負担が少なくなるから(家で弁当を作る回数を少なくできるから)	77 人	44.0%	54 人	37.2%
配膳や片付けが楽そうだから	44 人	25.1%	15 人	10.3%

・家庭からの弁当持参か、弁当箱方式の給食を選択出来る方法が良いと選んだ小中学生、保護者、中学校教師のいずれも弁当を都合に合わせて注文できるからの理由が最も多い。

	小学生保護者 (問5) 回答 63 人		中学生保護者 (問5) 回答 69 人		中学校教師 (問5) 回答 12 人	
弁当を都合に合わせて注文できるから	58 人	92.1%	64 人	92.8%	12 人	100%
栄養のバランスが良いから	20 人	31.7%	30 人	43.5%	3 人	25.0%
弁当を作る負担が少なくなるから	31 人	49.2%	36 人	52.2%	7 人	58.3%
昼食指導の時間が短縮できるから					3 人	25.0%

第4章 給食実施方法について比較検討

中学校給食実施市の実施方法としては、主に単独校方式、センター方式、デリバリー方式があります。

なお、近隣の学校の調理場で調理した給食を他校へ配送する親子方式がありますが、本市の小学校調理室の現状をみると、各小学校の調理室が狭隘なため実施方法として現実的でないため検討外としました。

1 単独校方式

本市教育委員会は、小学校給食の単独校化を進めてきた経過から、中学校給食の実施に向けても理想的と考えますが、単独校方式の場合、各中学校の敷地内に調理棟を建設するため用地費は発生しないかわりに1校約4億円の調理棟建設費がかかり、更に中学校のうち2校にエレベーターが設置されていないためエレベーターを設置する場合はその経費も必要となります。

また、本市の調理基準による調理員等を配置しますと各校1名の栄養士を配置するなどランニングコストも割高になり、概算で直営方式は約83億円から85億円、民間委託方式で82億円から84億円の経費が見込まれます。

メリットとしては、温かい給食の提供や各校に栄養士がいることで食育指導が容易にできることや、学校の実情に合わせた対応が可能となり、アレルギーについてもきめ細かい対応ができ、食中毒などのリスクも最も少なくすることができます。

デメリットとしては、初期投資が最もかかることや、学校によっては敷地に余裕がなく建設できないことも予想されます。また、建設できたとしても全校(19校)設置までに相当の年数がかかることが考えられます。

さらに、食缶等を使用するため配膳と片付けに時間がかかることから日課表の見直しが必要となりますが、現実的には変更は難しいと考えます。

2 センター方式

センター方式の場合、現在は西部学校給食合同調理場で小学校2校分の給食を調理していますが老朽化により中学校給食までは対応できません。

このため、新たに給食センターを建設する必要がありますが、給食センターは「食品工場」とみなされるため工業専用地域や準工業地域などでしか建設することができませんことから単独校方式と異なり用地費の負担が生じます。

ここでは2棟の給食センターを建設した場合を想定し、概算で直営方式では約51億円から57億円、委託方式では、約50億円から56億円の経費が見込まれます。

センター方式のメリットとしては単独校方式と比べ経費がかからないことが挙げられます。

デメリットとしては、単独校方式よりも食中毒などが発生した場合、被害拡大のリスクが大きくなることや、給食センターから運搬するため、調理から2時間以内の喫食

が難しくなることなどが考えられます。また単独校方式と同様に日課表の見直しが必要となります。

3 デリバリー方式

市の栄養士が作成した献立に従って民間施設で業者が調理し、弁当箱に詰め学校に配送するデリバリー方式の場合は調理棟建設の必要はありませんが、エレベーターや配膳室の整備が必要となることも考えられます。

概算では全員利用の場合で約 6 億円から 12 億円、選択制で利用率 50% の想定で約 4 億円から 9 億円の経費が見込まれます。

メリットとしては、3つの方式のうちで最も経費がかからず給食を提供することができることや、予め弁当箱に詰められているため日課表への影響が少ないこと、複数の献立の設定ができることなどが挙げられます。

デメリットとしては、汁物の提供が難しいことや、食中毒の拡大などのリスクが大きくなること、民間調理場から運搬するため、調理から 2 時間以内の喫食が難しくなることなどが考えられます。

第5章 まとめ

藤沢市中学校給食検討委員会では、昨年7月以来都合10回に渡る会議を開催し、他市の中学校給食実施状況の視察や児童・生徒・保護者・教師に対するアンケート調査を実施するなど、中学校給食のあり方について検討をしてきました。ここに2年におたる検討委員会としての考え方をまとめるものです。

全国の82.4%で実施されている中学校給食については、成長期にある中学生にとって栄養バランスのとれた安全安心な食を摂取できる重要な機会となっています。また、本委員会が実施したアンケート調査において、小学校と同様の学校給食を希望する割合は全体で47%であり、学校給食やデリバリー方式による給食など中学校において何らかの給食を希望する割合は全体の78%となっています。しかし、藤沢市では前述のとおり一部実施していた中学校における完全給食を廃止し、牛乳のみの提供を行うミルク給食とした経過があります。さらに、神奈川県の中学校給食の実施率は16.4%と全国レベルから相当低い数字となっています。

一方、中学生を取りまく「食」の現状として、脂肪エネルギー比率が高く、カルシウムや食物繊維の摂取量が必要量に達していない、肥満とやせの両方の傾向がみられる、野菜類の摂取不足などの問題もあります。また、国は2005年(平成17年)に食育基本法を制定し、2008年(平成20年)6月には学校給食法を改正し、学校給食は、児童及び生徒の心身の健全な発達に資するだけでなく、「食に関する正しい理解と適切な判断力を養ううえで重要な役割を果たすもの」と位置づけられました。その目的に「学校における食育の推進を図ること」と明記され、学校給食の目標についても食育の観点から「適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図ること」や「我が国や各地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深めること」など「食」に関する様々な事柄について学ぶための項目が新設されました。

藤沢市においても食育推進計画である「生涯健康！ふじさわ食育プラン」では、学校の役割として「給食や学習時間を通じ、児童生徒の望ましい食習慣を習得するための指導」とされており、給食を通じての食育も期待されています。このため中学校において給食を実施することにより、より具体的な「食」指導を実践することが可能となり、更なる食育の推進が図られるものと考えます。

本検討委員会では、食育の観点から栄養士が栄養バランスを考えて作成した献立に従って調理を行い生徒に提供し、その食材費分を給食費として保護者に負担をお願いする方法を給食としたことから、現在一部の中学校で実施している業者弁当の校内販売については比較検討の対象としませんでした。検討を行った給食実施方式については、単独校方式は温かいメニューの提供と、生徒や学校の都合に合わせた調理が可能となります。センター方式は単独校方式に若干劣るものの、単独校方式より財政負担がかからずに完全給食ができます。デリバリー方式は3つの方式の中で最も財政負担が軽く、それほど時間もかからず導入ができます。

このようにそれぞれについてメリットがある反面、デメリットもあり、本委員会としてどの

方式が藤沢市の中学校の給食として望ましいものであるのか、ひとつの方式には絞りきれませんでした。またアンケート結果によると、中学生では家庭からの弁当持参を支持する声も多く(弁当持参と弁当持参かデリバリー方式の給食を選択する方法を合わせて 54.2%)、こうした状況も踏まえて考えていかななくてはなりません。いずれにしても、中学校で給食の実施にあたっては、栄養バランスのとれた食育に結びつくような給食が実施されることが望ましいと考えます。

教育委員会におかれましては中学校給食の実施に際しては、本委員会の検討結果等を参考として中学校の意見に充分配慮したうえで、子どものことを第一に考えた栄養バランスのとれた給食を実施することを基本に、中学校の給食が「食」指導の実践の場であり、重要な教育活動の場であることを踏まえ、総合的な視点をもった食育の推進を望みます。

おわりに

藤沢市中学校給食検討委員会は、2012年(平成23年)7月から10回の委員会を開催し、中学校の昼食のあり方について検討を重ねてきました。

中学校の生徒の食をとりまく状況などを研究し、様々な給食の方法を研究することで改めて「食」の大切さを実感することができました。

本委員会では前述のとおり特定の給食方法に絞っての報告は行いませんでしたが、中学校での給食実施に際しては、調理方法、調理施設、給食の運営、給食費の徴収、学校の日課表の課題、財政負担の問題など様々な課題があることも認識しております。

今後、教育委員会において中学校の昼食についての考え方を取りまとめる際には、これら多くの課題に対して実現可能な方法を探り、厳しい財政状況のなかで最小の経費で最大の効果をあげるよう期待いたします。

(参考資料)

- ・藤沢市中学校給食検討委員会設置要綱
- ・藤沢市中学校給食検討委員会委員名簿
- ・藤沢市中学校給食検討委員会開催経過
- ・中学校の昼食に対する意識アンケート調査表
- ・給食実施方法の比較

藤沢市中学校給食検討委員会設置要綱

(目的及び設置)

第1条 藤沢市立中学校（以下中学校という。）に在籍する生徒の食をとりまく現状、中学校給食の現状と方向性など中学校給食における食育の課題整理などを行い、さらに今後の中学校給食について検討・協議を行い、具体的な方向性を示すことを目的として、藤沢市中学校給食検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 中学生をとりまく食の現状を資料及び現地調査等で十分に検証し、課題や状況を理解し把握すること。
- (2) 中学校の学校給食のあり方について、他市の状況等を調査し、検討・協議を行うこと。
- (3) 調査した内容を十分に審議し、中学校給食のあり方について具体的な方向性を示すこと。
- (4) その他委員長が必要と認めた事項について、調査・検討・協議すること。

(組織)

第3条 委員会は、別表の委員をもって組織する。

(委員長及び職務代理)

第4条 委員会に委員長を1名置き、委員がこれを互選する。

- 2 委員長は委員会を代表し、会務を総括する。
- 3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第5条 会議は、必要により委員長が招集する。

- 2 委員会は、委員長を含め委員の3分の2以上の出席（代理出席も認める。）により成立する。
- 3 委員会の議事は、委員長を含め出席者の4分の3以上の多数をもって決する。

(任期)

第6条 委員長及び委員の任期は、これを定めない。

(関係者の出席)

第7条 委員長は、必要と認める時は、事案に関係する者を委員会に出席させ、説明を求め、意見を聴く事ができる。

(事務局)

第8条 委員会に関する庶務は、教育総務課給食担当が行う。

(委任)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この要綱は、平成23年7月21日から施行する。

この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

別表（第3条関係）

選 出 区 分	人数
学識経験者	1 人
藤沢市立小中学校校長会	2 人
栄養教諭	1 人
小中学校教諭	2 人
P T A連絡協議会	2 人
教育委員会	4 人
市職員の代表	1 人

教育委員会 教育総務部長
教育総務課長
教育指導課長
学務保健課長

藤沢市中学校給食検討委員会 委員名簿(平成23年度)

	選出区分	役 職	氏 名
1	学識経験者	神奈川県立保健福祉大学 教授	山本 妙子
2	藤沢市立小中学校校長会	高浜中学校長	中村 浩幸
3		明治小学校長	西新屋 環
4	栄養職員	大清水小学校 栄養教諭	椿 恵美子
5	小中学校教諭	高倉中学校 教諭	奥井 隆夫
6		俣野小学校 教諭	羽田 一郎
7	PTA連絡協議会	副会長	岩野 妙子
8		総務会計	清水 三奈
9	市職員の代表		吉澤 宏直
10	教育総務部長		村岡 泰孝
11	教育総務部担当部長		桑山 光生
12	教育総務課長		中島 徳幸
13	教育指導課長		吉田 早苗
14	学務保健課長		吉住 潤

☆

☆委員長

事務局： 藤沢市教育委員会 教育総務課 給食担当

藤沢市中学校給食検討委員会 委員名簿(平成24年度)

	選出区分	役 職	氏 名
1	学識経験者	神奈川県立保健福祉大学 教授	山本 妙子
2	藤沢市立小中学校校長会	高浜中学校長	中村 浩幸
3		大越小学校長	藤田由利子
4	栄養職員	大清水小学校 栄養教諭	椿 恵美子
5	小中学校教諭	高倉中学校 教諭	奥井 隆夫
6		御所見小学校 教諭	三國 仁史
7	PTA連絡協議会	会長	岩野 妙子
8		副会長	田中 孝史
9	市職員の代表	(第8回まで)	吉澤 宏直
		(第9回より)	丸田 秀
10	教育総務部長		桑山 光生
11	教育総務課長		中島 徳幸
12	教育指導課長		高石佳久子
13	学務保健課長		吉住 潤

☆

☆委員長

事務局： 藤沢市教育委員会 教育総務課 給食担当

藤沢市中学校給食検討委員会開催経過

第1回 藤沢市中学校給食検討委員会

開催日： 2011年(平成23年)7月21日(木)

【 議事 】

各委員自己紹介の後、藤沢市中学校給食検討委員会設置要綱第4条に基づき、委員長に神奈川県立保健福祉大学教授 山本妙子委員を互選で選出し、委員長の指名で、委員長職務代理に教育総務部長を指名。

- ①学校給食の現状
- ②藤沢市における中学校給食の過去の実績と休止の経過について
- ③中学校の弁当販売について
- ④全国及び神奈川県の中学校給食の実施状況について
- ⑤給食の実施方式について

第2回 藤沢市中学校給食検討委員会

開催日： 2011年(平成23年)8月22日(月)

【 議事 】

- ①学生をとりまく食の現状
- ②学校給食に関する法律等
- ③その他

厚木市中学校給食視察

実施日： 2011年(平成23年)10月11日(火)

【 内容 】

- ①厚木市南部学校給食センター視察
- ②厚木市立厚木中学校視察

第3回 藤沢市中学校給食検討委員会

開催日： 2011年(平成23年)10月24日(月)

【 議事 】

- ①ふじさわ食育プランについて
- ②藤沢市の食育について
- ③厚木市視察について

海老名市中学校給食視察

実施日： 2011年(平成23年)11月14日(月)

【 内容 】

- ①海老名市立有馬中学校視察(デリバリー弁当)

第4回 藤沢市中学校給食検討委員会

開催日：2011年(平成23年)12月15日(木)

【議事】

①海老名市視察について

②中間報告について

第5回 藤沢市中学校給食検討委員会

開催日：2012年(平成24年)1月30日(月)

【議事】

①中間報告について

第6回 藤沢市中学校給食検討委員会

開催日：2012年(平成24年)5月31日(木)

【議事】

①アンケートについて

第7回 藤沢市中学校給食検討委員会

開催日：2012年(平成24年)7月4日(水)

【議事】

①アンケートについて

第8回 藤沢市中学校給食検討委員会

開催日：2012年(平成24年)8月22日(水)

【議事】

①給食実施方法の比較検討について

②アンケート調査結果について

第9回 藤沢市中学校給食検討委員会

開催日：2012年(平成24年)10月30日(火)

【議事】

①検討結果報告について

第10回 藤沢市中学校給食検討委員会

開催日：2012年(平成25年)1月17日(木)

【議事】

①検討結果報告について

「中学校給食に対する意識アンケート調査」

(調査の目的)

このアンケートは、中学校で給食を実施する場合に、皆さんはどのような方法が良いと思っているのか調べるために行います。

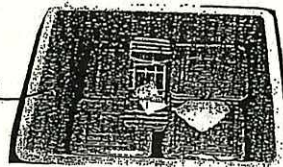
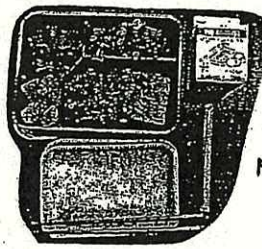


(給食の方法の違い)

今の方式・・・栄養士さんが作った献立で、学校の給食調理室や外の給食調理場で調理して教室でお皿等に分ける方法



弁当箱方式・・・栄養士さんが作った献立で、お弁当屋さんが調理して、一人分を弁当箱に詰めて、トラックで学校に運び教室で弁当箱を配る方法



(基本事項)

あなたの性別は？ ①男性 ②女性 (あてはまるものに○を付けてください)



(質問)

問1 中学校での昼食は次の4つの中のどれがいいですか、ひとつだけ○を付けてください。

①家から持ってくる弁当

②小学校と同じ給食

③弁当箱方式の給食

④家から持ってくる弁当か、弁当箱方式の給食か、どちらか選べる方法



(問1で①を選んだ人だけ答えてください。)

問2 なぜ、家から持ってくる弁当がいいのですか、あてはまるものすべてに○を付けてください

①おかずや量が調整できるから

②おいしいから



③家族の愛情を感じるから

④アレルギーがあるから

⑤栄養のバランスがいいから

⑥小学校と違う方がいいから

⑦給食当番をやらなくていいから

(問1で②を選んだ人だけ答えてください。)

問3 なぜ、小学校と同じ給食がいいのですか、あてはまるものすべてに○を付けてください

①小学校と同じだから

②小学校の給食が好きだから

③全員が同じ給食を食べるから

④栄養のバランスがいいから

⑤家でお弁当を作らなくていいから

⑥お弁当を持ってこなくてよいから



(問1で③を選んだ人だけ答えてください。)

問4 なぜ、弁当箱方式の給食がいいのですか、あてはまるものすべてに○を付けてください

①全員が同じ昼食を食べられるから

②栄養のバランスがいいから

③家でお弁当を作らなくていいから

④給食当番をやらなくていいから

⑤お弁当を持ってこなくてよいから

⑥片付けが楽そうだから

(問1で④を選んだ人だけ答えてください。)

問5 なぜ、家から持ってくる弁当か、弁当箱方式の給食か、どちらか選べる方法がいいのですか、あてはまるものすべてに○を付けてください

①好きなときに頼めるから

②家でお弁当を作る回数を少なくできる

③栄養のバランスがいいから

④給食当番をやらなくていいから

⑤片付けが楽そうだから

これでアンケートは終わりです。ありがとうございました。

「中学校の昼食に対する意識アンケート調査」

(調査の目的)

この調査は、藤沢市中学校給食検討委員会が、今後の中学校給食の方向性を考える基礎資料とするために行うものです。

ご協力くださいますよう、よろしくお願いします。

(給食の提供方法)

- ①学校給食方式・・・栄養士が作成した献立に従い、学校に設置した給食調理室や外の給食調理場で調理して、温かいまま教室で食器等に配食する方式
- ②弁当箱方式・・・栄養士が作成した献立に従って、弁当業者等が調理し、弁当箱に詰め学校へ配送する方式

※ 給食費については①・②とも1食あたり250円から300円としている自治体が多いようです。

(基本事項)

性別は ①男子 ②女子 (該当するものに○を付けてください)

(質問)

問1 学校で授業がある日に食べる昼食はどちらが多いですか

- ①家庭から持ってくる弁当 ②コンビニや学校販売の弁当・パン

問2 学校での昼食時間の長さはどうか

- ①短い ②ちょうどよい ③長い

問3 あなたにとって学校での昼食はどの方法がよいですか、一つだけ○を付けてください。

- ①今までどおり家庭からの弁当持参を基本とする方法
- ②学校給食方式
- ③弁当箱方式の給食 (全員)
- ④今までどおり家庭からの弁当持参か、弁当箱方式の給食を選択できる方法

(問3で①を選んだ人のみ答えてください)

問4 今までどおり家庭からの弁当持参を基本とする方法がよい理由はなんですか、該当するものに○を付けてください。(複数回答可)

- | | |
|-----------------|---------------|
| ①好みや量が調整できるから | ②美味しいから |
| ③作った人の気持ちを感じるから | ④食物アレルギーがあるから |
| ⑤栄養のバランスがよいから | ⑥配膳をしなくてよいから |

(問3で②を選んだ人のみ答えてください)

問5 学校給食方式がよい理由はなんですか、該当するものに○を付けてください。(複数回答可)

- | | |
|----------------|-----------------|
| ①小学校と同じ方式だから | ②小学校の給食が好きだったから |
| ③全員が同じ給食を食べるから | ④栄養のバランスがよいから |
| ⑤弁当を作る負担がないから | ⑥弁当を持ってこなくてよいから |

(問3で③を選んだ人のみ答えてください)

問6 全員が弁当箱方式の給食がよい理由はなんですか、該当するものに○を付けてください。(複数回答可)

- | | |
|-----------------|----------------|
| ①全員が同じ昼食を食べるから | ②栄養のバランスがよいから |
| ③弁当を作る負担がないから | ④配膳や片付けが楽そうだから |
| ⑤弁当を持ってこなくてよいから | |

(問3で④を選んだ人のみ答えてください)

問7 今までどおり家庭からの弁当持参か、弁当箱方式の給食を選択できる方法がよい理由はなんですか、該当するものに○を付けてください。(複数回答可)

- | |
|---------------------|
| ①弁当を都合に合わせて注文できるから |
| ②家庭で弁当を作る負担が少なくなるから |
| ③栄養のバランスがよいから |
| ④配膳や片付けが楽そうだから |

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

「中学校の昼食に対する意識アンケート調査」

(調査の目的)

現在、藤沢市の中学校では給食を実施しておらず、家庭からの弁当持参を基本としています。

このため、藤沢市教育委員会では学識経験者や教師、保護者等からなる中学校給食検討委員会で中学校での昼食のあり方について様々な検討を行っております。

このアンケートは中学校給食検討委員会が、今後の中学校の昼食の方向性を考えるうえでの基礎資料とするために行うものです。

ご協力くださいますよう、よろしくお願いします。

①学校給食方式・・・栄養士が作成した献立に従い、学校に設置した給食調理室や外の給食調理場で調理して、温かいまま教室で食器等に配食する方式

②弁当箱方式・・・栄養士が作成した献立に従って、弁当業者等が調理し、弁当箱に詰め学校へ配送する方式

※ 給食費については①・②とも1食あたり250円から300円としている自治体が多いようです。

(基本事項)

お子さんは ①小学校6年生 男子 ②小学校6年生 女子
 ③中学校2年生 男子 ④中学校2年生 女子

(該当するものに○を付けてください)

(質問)

問1 あなたにとってお子さんの中学校での昼食はどの方法がよいですか、一つだけ○を付けてください

①今までどおり家庭からの弁当持参を基本とする方法

②学校給食方式

③弁当箱方式の給食(全員)

④家庭からの弁当持参か、弁当箱方式の給食を選択できる方法

(問1で①を選んだ方のみお答えください)

問2 今までどおり家庭からの弁当持参を基本とする方法がよい理由はなんですか、該当するものに○を付けてください。(複数回答可)

- ①子どもにあわせて好みや量が調整できるから ②美味しいから
- ③子どもに弁当を作ってあげたいから
- ④子どもに食物アレルギーがあるから ⑤栄養のバランスがよいから
- ⑥子どもの様子がわかるから

(問1で②を選んだ方のみお答えください)

問3 学校給食方式がよい理由はなんですか、該当するものに○を付けてください。(複数回答可)

- ①全員が同じ給食を食べるから ②栄養のバランスがよいから
- ③弁当を作る負担がないから ④子どもが給食を好きだから

(問1で③を選んだ方のみお答えください)

問4 全員が弁当箱方式の給食がよい理由はなんですか、該当するものに○を付けてください。(複数回答可)

- ①全員が同じ給食を食べるから ②栄養のバランスがよいから
- ③弁当を作る負担がないから

(問1で④を選んだ方のみお答えください)

問5 家庭からの弁当持参か、弁当箱方式の給食を選択できる方法がよい理由はなんですか、該当するものに○を付けてください。(複数回答可)

- ①都合に合わせて注文できるから ②弁当を作る負担が少なくなるから
- ③栄養のバランスがよいから

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

藤沢市中学校給食検討委員会

事務局：藤沢市教育委員会 教育総務課 給食担当

電話：0466-50-3556

「中学校給食に対する意識アンケート調査」

(調査の目的)

この調査は、藤沢市中学校給食検討委員会が、今後の中学校給食の方向性を考えるための基礎資料とするために行うものです。

ご協力くださいますよう、よろしくお願いします。

(給食の提供方法)

- ①学校給食方式・・・栄養士が作成した献立に従い、学校に設置した給食調理室や外の給食調理場で調理して、温かいまま教室で食器に配食する方式
- ②弁当箱方式・・・栄養士が作成した献立に従って、弁当業者等が調理し、弁当箱に詰め学校へ配送する方式

※ 給食費については①・②とも1食あたり250円から300円としている自治体が多いようです。

(質問)

問1 中学校での昼食はどの方法がよいと考えますか、一つだけ○を付けてください。

- ①今までどおり家庭からの弁当持参を基本とする方法
- ②学校給食方式
- ③弁当箱方式の給食（全員）
- ④今までどおり家庭からの弁当持参か、弁当箱方式の給食を選択できる方法

(問1で①を選んだ方のみお答えください)

問2 今までどおり家庭からの弁当持参を基本とする方法がよい理由はなんですか、該当するものに○を付けてください。(複数回答可)

- ①弁当を作るのは子どものためによいと思うから
- ②生徒の好みや量を調整できるから
- ③昼食指導の時間が短縮できるから
- ④今の方法に特に問題がないから

(問 1 で②を選んだ方のみお答えください)

問 3 学校給食方式がよい理由はなんですか、該当するものに○を付けてください。

(複数回答可)

- ①全員が同じ給食を食べるから ②栄養のバランスがよいから
- ③家庭で弁当を作る負担がなくなるから

(問 1 で③を選んだ方のみお答えください)

問 4 弁当箱方式の給食(全員)がよい理由はなんですか、該当するものに○を付けてください。(複数回答可)

- ①全員が同じ昼食を食べるから ②栄養のバランスがよいから
- ③家庭で弁当を作る負担がなくなるから ④昼食指導の時間が短縮できるから

(問 1 で④を選んだ方のみお答えください)

問 5 家庭からの弁当持参か、弁当箱方式の給食を選択できる方法がよい理由はなんですか、該当するものに○を付けてください。(複数回答可)

- ①都合に合わせて注文できるから
- ②家庭で弁当を作る負担が少なくなるから
- ③栄養のバランスがよいから
- ④昼食指導の時間が短縮できるから

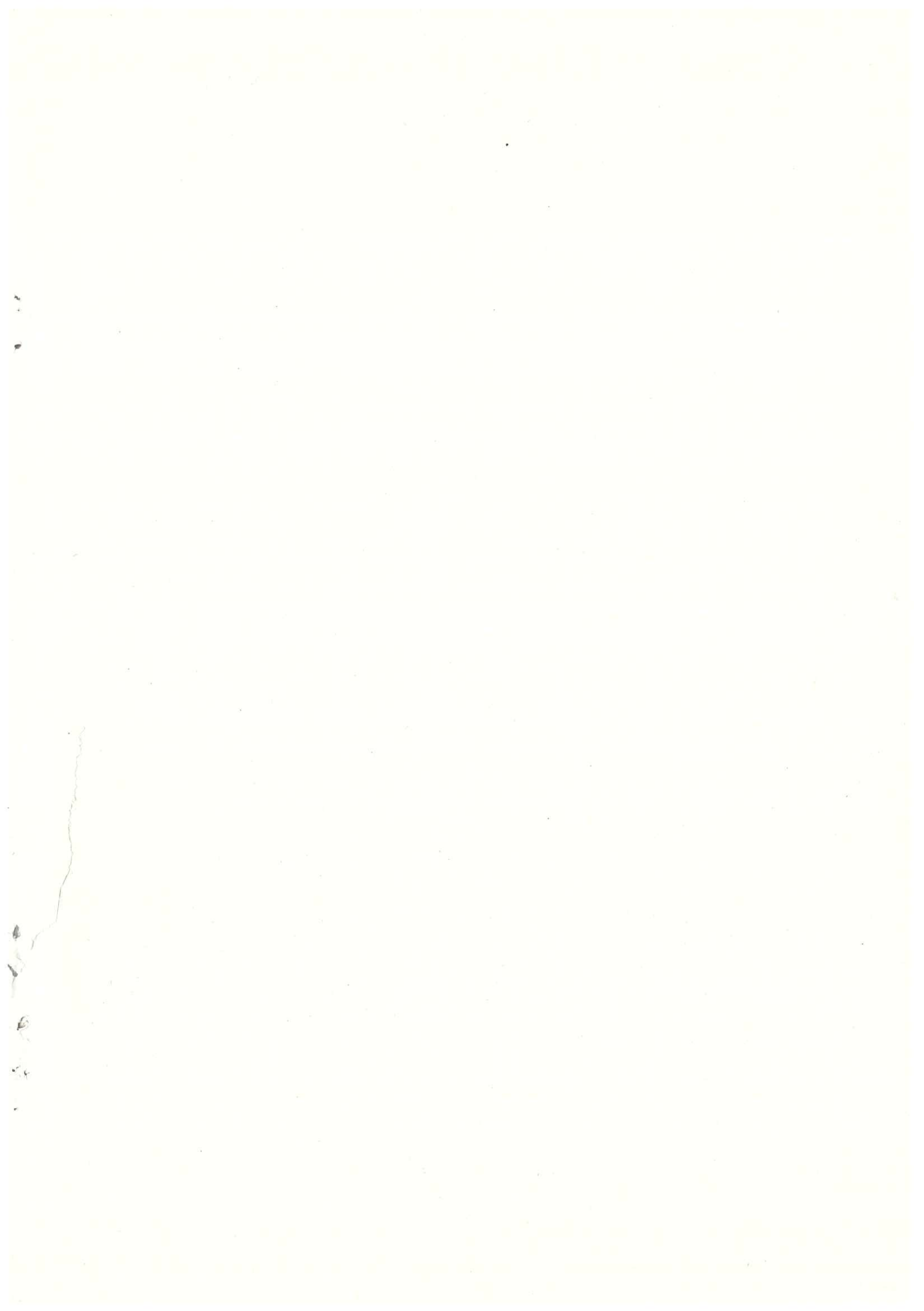
以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

給食実施方法の比較

	単独校方式	
運営形態等	直 営	委 託
建設費＋年間運営費	83億9千万円 ～ 85億円	82億9千万円 ～ 84億円
建設費	78億3千万円 ～ 79億4千万円	78億3千万円 ～ 79億4千万円
用地費	—	—
施設整備費	76億円 ～ 77億円	76億円 ～ 77億円
消耗品費	2億3千万円	2億3千万円
年間運営費	5億5千万円	4億5千万円
人件費	4億9千万円	8千1百万円
管理運営費	4千6百万円	3億6千万円
消耗品費等	1千4百万円	9百万円
導入に当たっての特記事項	・施設整備費はエレベーター未設置校(2校)に設置した場合と、設置しない場合を想定したため金額に幅がある (PFI事業を行うことで、単年度の負担を軽減できる)	
食育	栄養士がいることで、給食を通した食育計画が立案しやすい	
地産地消	小学校と同様に一定量の消費が可能	
アレルギー対応	各校で調理するため、きめ細かい対応が可能	
食の安全(リスク分散)	食中毒が発生した場合は、被害が最小限に留まる	
学校行事への対応 (給食時間の変更)	各校で調理するため、柔軟な対応が可能	
調理から喫食まで	最も短時間で提供できるため、温かい給食の提供が可能	
配膳時間	食缶等を使用するため、配膳に時間が掛かることから、日課表の見直しが必要	
複数メニューの設定	複数メニューの設定は困難	
献立内容	温かいメニュー、麺類、汁物などを提供できる	
課 題	・校地の状況により、施設整備が困難な場合がある ・初期投資が最も掛かる ・全校単独校化までかなりの時間が掛かる ・日課表の見直しが非常に難しい	

	センター方式 2調理場(各6,000食提供)	
運営形態等	直 営	委 託
建設費＋年間運営費	51億2千万円 ～ 57億4千万円	50億円 ～ 56億2千万円
建設費	45億4千万円 ～ 51億6千万円	45億4千万円 ～ 51億6千万円
用地費	7億2千万円	7億2千万円
施設整備費	36億3千万円 ～ 42億4千万円	36億3千万円 ～ 42億4千万円
消耗品費	1億9千万円	1億9千万円
年間運営費	5億7千万円	4億5千万円
人件費	4億5千万円	6千9百万円
管理運営費	1億1千万円	3億7千万円
消耗品費等	1千万円	9百万円
導入に当たっての特記事項	・施設整備費はエレベーター未設置校(2校)に設置した場合と、設置しない場合、全校に配膳室を新設した場合と、既存を利用した場合を想定したため金額に幅がある ・各校に配膳員を2名配置 ・配送方法を工夫すれば、管理運営費を更に減額できる可能性がある(PFI事業を行うことで、単年度の負担を軽減できる)	
食育	・センターの栄養士が、給食を通した食育指導を行うことは可能	
地産地消	・小学校と同様に一定量の消費が可能	
アレルギー対応	・簡単な除去食程度は可能	
食の安全(リスク分散)	・食中毒が発生した場合は、被害範囲が拡大する可能性がある	
学校行事への対応 (給食時間の変更)	・規模が大きいため、柔軟な対応は難しい	
調理から喫食まで	・センターから運搬するため、2時間以内の喫食が難しい場合も考えられる	
配膳時間	・食缶等を使用するため、配膳に時間が掛かることから、日課表の見直しが必要	
複数メニューの設定	・複数メニューの設定は困難	
献立内容	・温かいメニュー、麺類、汁物などを提供できる	
課 題	・給食調理施設は用途地域が工専・工業・準工でないと設置できないため、新たに用地を取得する必要がある ・生徒数が減少しても、配送は変わらないため、運営経費の削減が難しい ・日課表の見直しが非常に難しい	

	デリバリー方式 1食560円として保護者300円(材料費)市260円(委託費)で想定	
運営形態等	全 員	選択制(利用率50%で想定)
建設費+年間運営費	6億4千万円 ～ 12億8千万円	3億8千万円 ～ 9億9千万円
建設費	5千7百万円 ～ 6億9千万円	5千7百万円 ～ 6億9千万円
用地費	—	—
施設整備費	1千9百万円 ～ 6億5千万円	1千9百万円 ～ 6億5千万円
消耗品費	3千8百万円	3千8百万円
年間運営費	5億8千万円	3億2千万円
人件費	2千6百万円	2千6百万円
管理運営費	5億5千万円	2億9千万円
消耗品費等	2百万円	2百万円
導入に当たっての特記事項	・施設整備費はエレベーター未設置校(2校)に設置した場合と、設置しない場合、全校に配膳室を新設した場合と、既存を利用した場合を想定したため金額に幅がある ・各校に配膳員を2名配置	
食育	・全員の場合は栄養士が、給食を通した食育指導を行うことは可能であるが、選択制の場合は検討を要する	
地産地消	・献立を工夫すれば消費が可能	
アレルギー対応	・対応は困難であるため本人が除去する必要がある	
食の安全(リスク分散)	・食中毒が発生した場合は、被害範囲が拡大する可能性がある	
学校行事への対応 (給食時間の変更)	・年間事業計画に沿った弁当の提供となるため対応は難しい	
調理から喫食まで	・民間の調理場から運搬するため、2時間以内の喫食が難しい場合も考えられる	
配膳時間	・予め弁当箱に詰めているため日課表への影響は少ない	
複数メニューの設定	・複数メニューの設定は可能	
献立内容	・温かいメニュー、汁物などを提供可能であるが、対応する施設や備品が必要となるため整備費が高額となる	
課 題	・必要な食数を調理する能力があり、学校給食衛生管理基準に対応できる民間事業が市内または近隣にあるか	





資料 5

本市の中学校給食の状況について



本市中学校給食の歴史

年 月	概 要
1964年4月	文部・農林両事務次官通達(学校給食用牛乳供給事業の実施について)が出され、 藤沢においても中学校給食でミルク給食を開始
1967年6月	六会・長後・御所見の中学校に対して、北部学校給食センターから完全給食を提供
1971年4月	湘洋中学校に対して、南部学校給食センターから完全給食の提供を開始
1973年4月	高浜中学校に、南部学校給食センターから完全給食の提供を開始
1976年4月	秋葉台中学校に対して、西部学校給食合同調理場から完全給食の提供を開始
	善行中学校に対して、善行学校給食合同調理場から完全給食の提供を開始
1979年	藤沢市新総合計画内で次のとおり示された 「 中学校の学校給食については、現在の中学校教育全体からみて、その在り方を検討します 」
	これに基づき、中学校給食検討委員会の設置、検討が行われ、教育環境や教育内容の充実を図るため、 完全給食を中止することが決定された。
	※この時点で13校中7校で完全給食、6校でミルク給食実施という状況
1980年4月	完全給食実施校をミルク給食に変更(全校ミルク給食に統一)
2011年7月	「藤沢市中学校給食検討委員会」設置 (中学校給食の今後の方向性について検討を開始)
2013年8月	「中学校給食実施にあたっての基本方針」を策定
2014年11月	善行中・湘南台中で選択式デリバリー方式での給食試行開始
2015年10月	明治中・六会中で試行開始
11月	第一中で試行開始
2016年3月	「藤沢市中学校給食実施計画」を策定
10月	大庭中・高倉中・大清水中で開始
11月	御所見中で開始
2017年2月	おかずの大盛導入
10月	長後中・秋葉台中・滝の沢中で開始
2018年4月	給食費改定(普通盛:300円→330円、大盛:380円→400円)
10月	片瀬中で試行開始、クレジットカード決済導入
2019年5月	藤ヶ岡中・村岡中・羽鳥中で開始
10月	鵜沼中・湘洋中・高浜中で開始(全校完了)
2020年1月	予約システム運営事業者変更、クレジットカード自動支払い開始
2024年1月	給食費について在校生及び教職員の口座振込返金を開始(これまでは中学3年生のみ)
2025年1月	システム改修により、自宅への払込用紙等郵送・ペーパーレス決済を開始

学校給食の方式

方式	調理・配送	イメージ
自校方式	学校内の給食室で調理、配送なし	自校で調理  食缶で配膳、配送なし  
センター方式	給食センターで調理し、複数校へ配送	給食センターで調理  複数校へ配送   
親子方式	学校内の給食室（親）で調理し、近隣の学校（子）へ配送	親校で調理  近隣校へ配送   
デリバリー方式	民間事業者の調理場で調理し、ランチボックスに盛付後、複数校へ配送	民間事業者の調理場で調理・盛付  複数校へ配送  

学校給食の提供方式

方式	提供方法	温度	量の調整
食缶方式	食缶から配食して提供	温かい	可能
ランチボックス方式	お弁当のように提供	おかずのみ食中毒防止のため一定温度まで冷却	難しい(1人分として盛付)

各方式の実施整理

方式	条件
自校方式	・校地の状況により、施設整備が困難な場合がある ・初期投資が最も掛かる ・全校単独校化までかなりの時間が掛かる ・日課表の見直しをする必要がある
センター方式	・給食調理施設は用途地域が工専・工業・準工でないと設置できないため、新たに用地を取得する必要がある ・生徒数が減少しても、配送は変わらないため、運営経費の削減が難しい ・日課表の見直しをする必要がある ・配送用スペースの確保（コンテナ置場、車寄せ、配膳室の大規模改修など）
親子方式	・中学校分の給食調理、配送が可能な親子の組合せ ・日課表の見直しをする必要がある。 ・配送用スペースの確保（コンテナ置場、車寄せ、配膳室の大規模改修など）
デリバリー方式	・必要な食数を調理する能力があり、学校給食衛生管理基準に対応できる民間事業者が市内または近隣にあるか ・給食調理施設は用途地域が工専・工業・準工でないと設置できないため、新たに用地を取得する必要がある

本市小学校給食の実施状況

小学校給食は自校方式で提供しています

- ①提供内容：主食、副食、牛乳の完全給食（学校給食法施行規則で規定）
- ②平成26年9月に滝の沢小・駒寄小の新設給食調理室が稼働し、全校単独調理場となる。（単独校化完了・合同調理場廃止）
- ③年間実施回数：182回（令和7年度実施回数）
- ④給食費：月額4,500円（1食270円、ただし、物価高騰による公費負担有）
- ⑤給食時間：40～50分（準備～片付けまでの時間、喫食時間は約15～20分）
- ⑥配膳方法：各クラスで給食当番の児童が配食



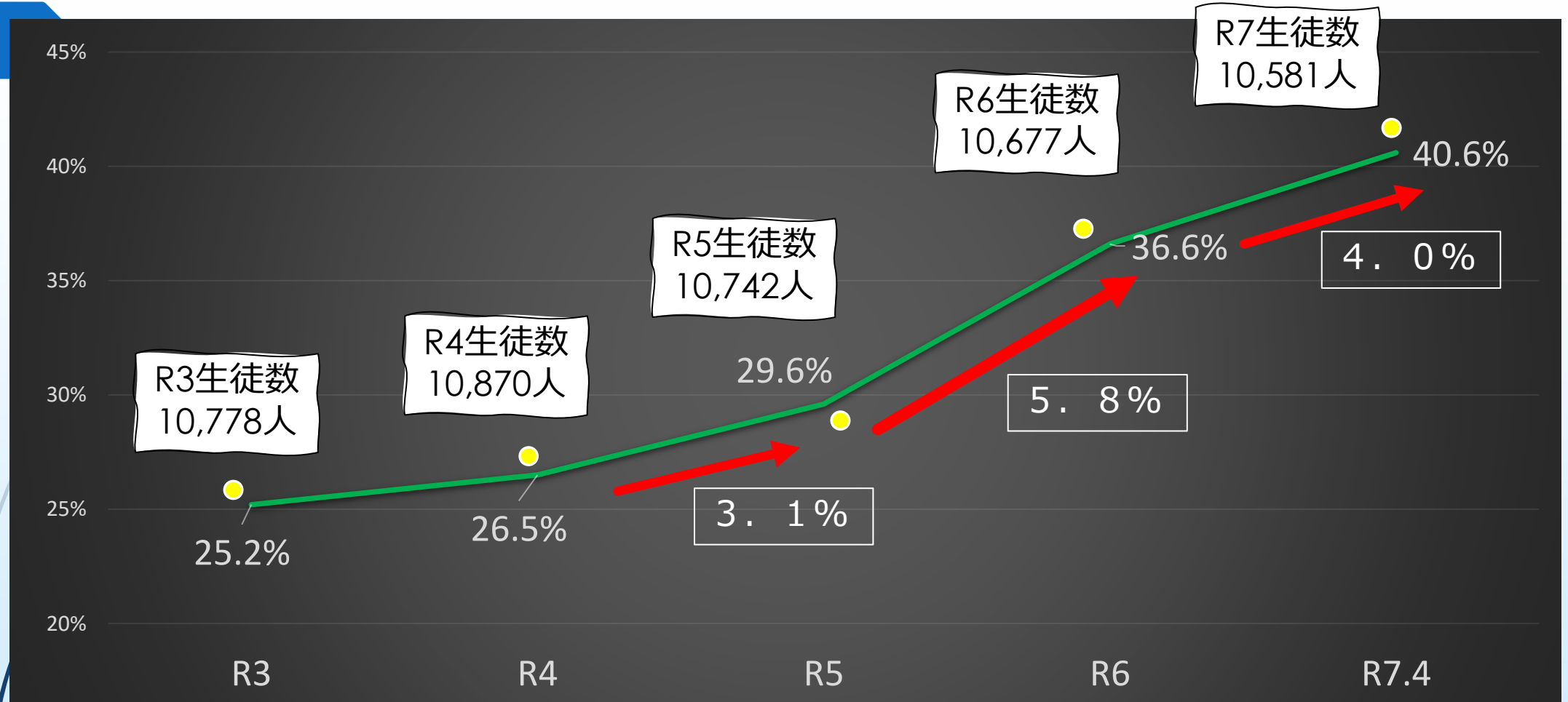
本市中学校給食の実施状況

中学校給食は選択制デリバリー方式で提供しています

- ①提供内容：主食、副食、牛乳の完全給食（学校給食法施行規則で規定）
- ②利用方法：予約システムから普通盛、おかずの大盛、牛乳ありなしを選択し、6平日前の締切までに予約・入金する
- ③年間実施回数：平均約170回（献立作成回数は190回、各校により回数は異なる）
- ④給食費：330円（牛乳込み）、400円（おかずの大盛・牛乳込み）
（ただし、物価高騰による公費負担有）
- ⑤給食時間：20～25分
（準備～片付けまでの時間、喫食時間は概ね15分）
- ⑥配膳方法：各校配属の配膳員により各フロア指定の場所へ配膳し、各クラスの担当生徒がクラスまで移動



本市の中学校給食平均喫食率の推移



※職員数は約750人

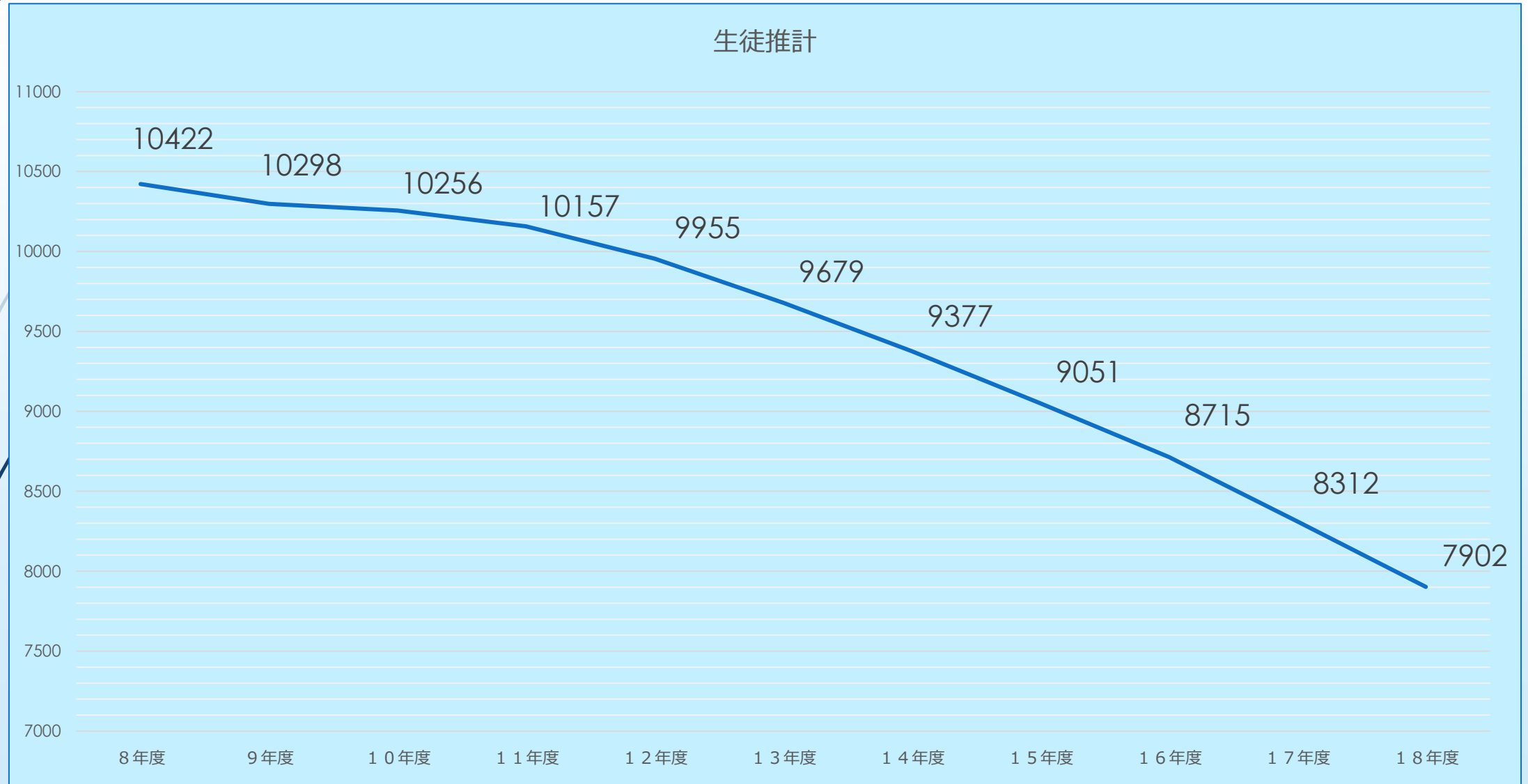
令和4年度→令和5年度 **3.1%の上昇**

令和5年度→令和6年度 **5.8%の上昇**

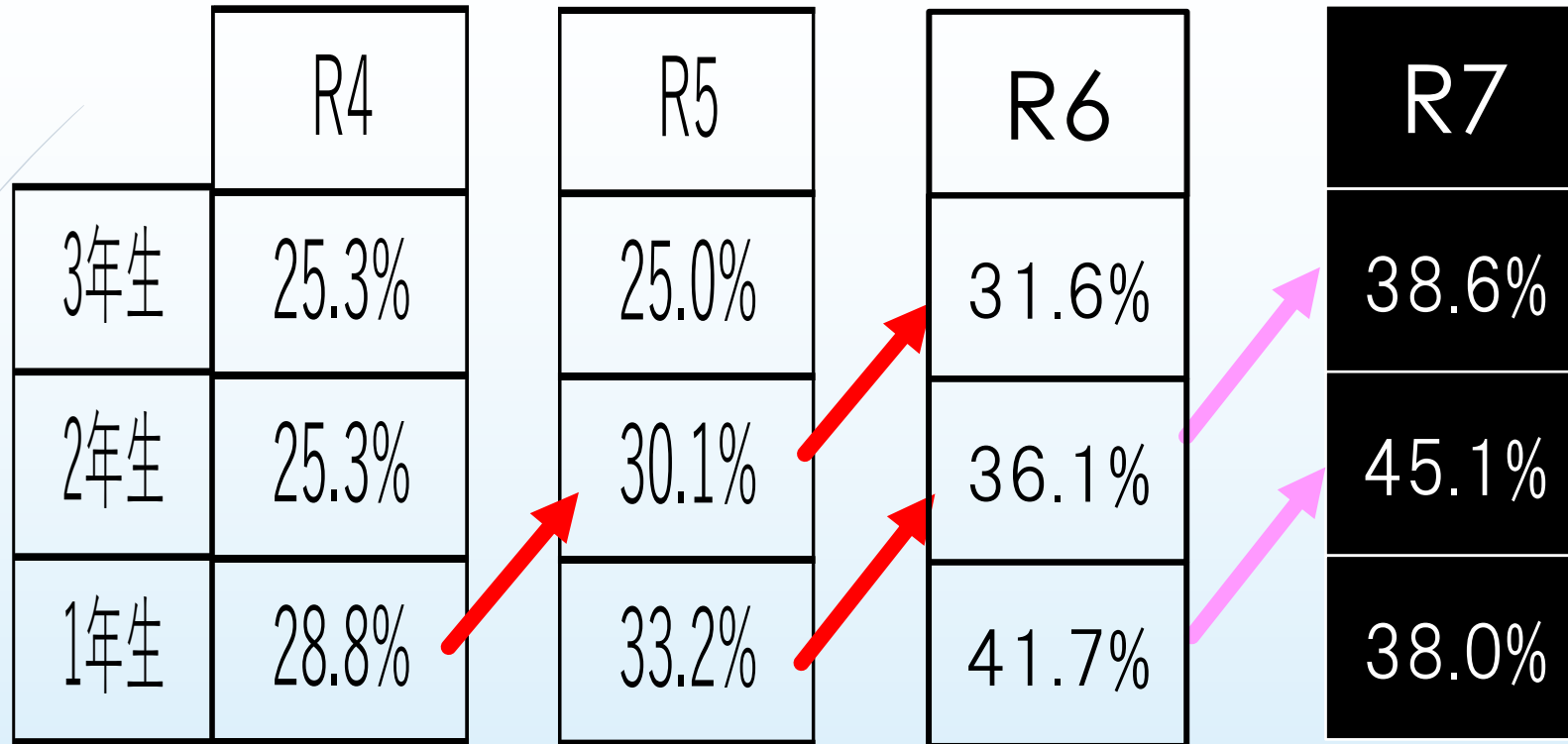
令和6年度→令和7年度4月 **4.0%の上昇**

5月以降、さらに喫食率が上昇することが予想される

令和 8 年度～令和 1 8 年度 生徒推計



喫食率の推移（学年別）



- ・ コロナ明け以降、試食会を再開し（令和4年）中学校給食に触れる機会が増えた学年から徐々に喫食率が伸びている
- ・ 新入生は、「クラスでの様子を見てから」「予約が間に合わなかった」等の理由から5月以降に喫食率が上昇する可能性がある

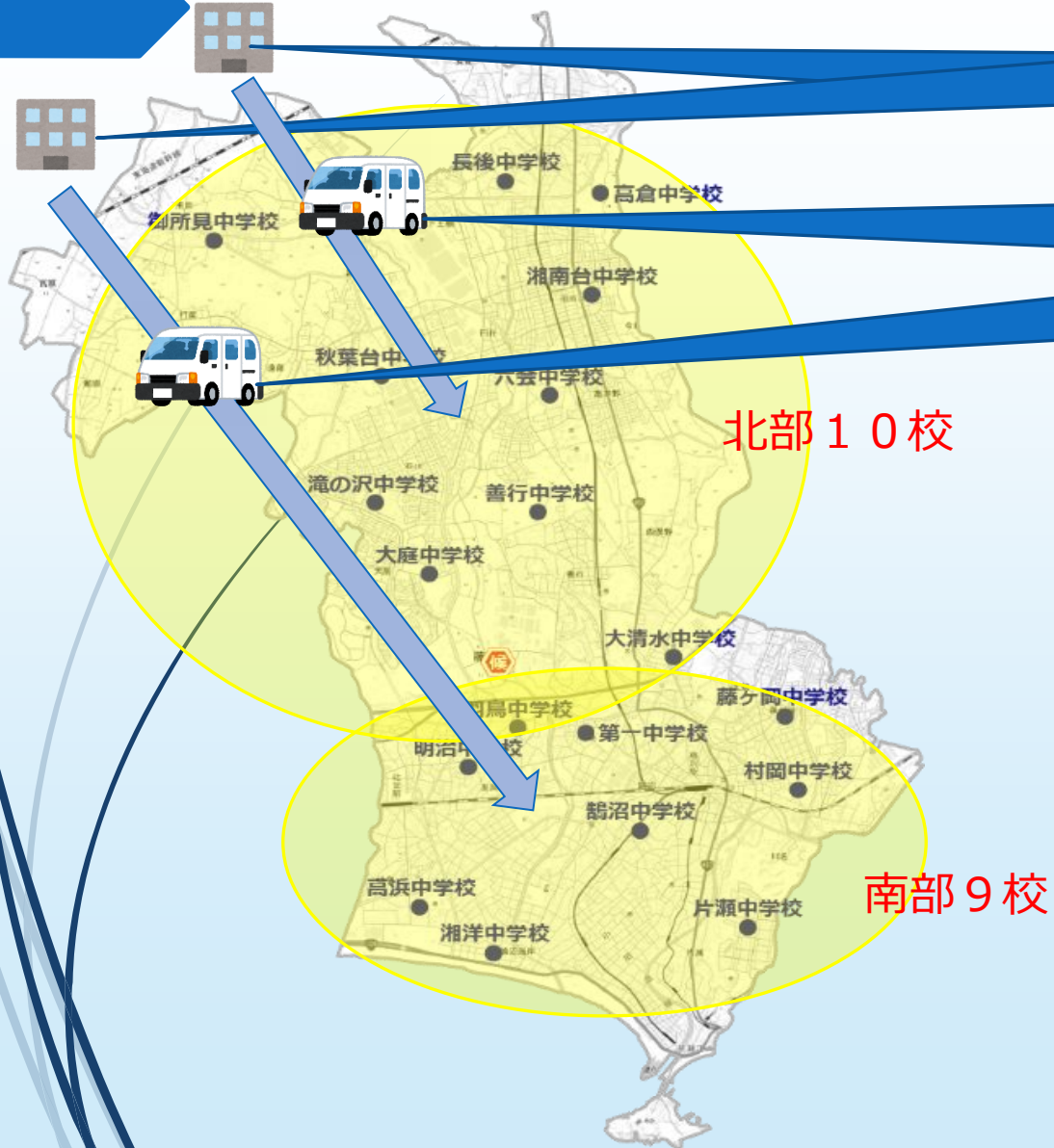
中学校給食の提供体制

①調理工場で調理
(受託業者2社)

②各中学校の配膳室へ配送
(受託業者)

③配膳室→各フロアへ配膳
(受託業者)

④各教室へ配膳
(受託業者)



調理委託事業者の状況①

【調理限度食数】

- ・ 北部10校 ハーベスト 2,000食
- ・ 南部 9 校 安田物産 2,300食

※安田物産は、令和7年度9月から新工場稼働に伴い、
2,700食までは対応可能な予定

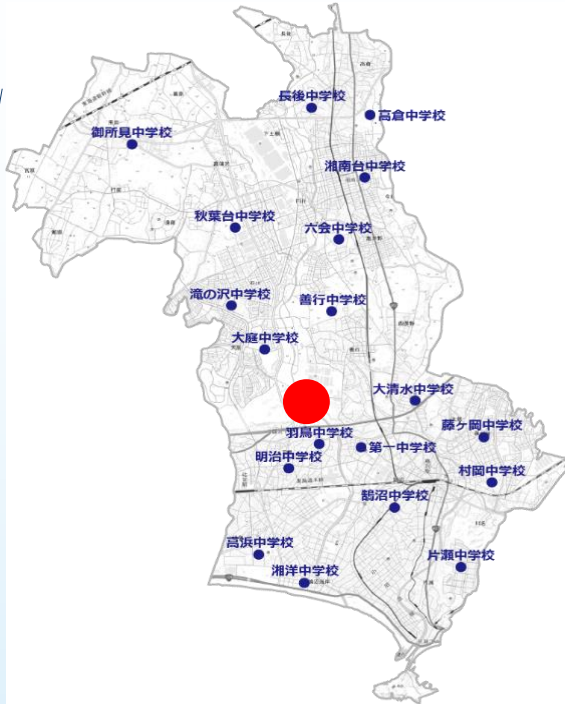
※連日の提供でなければ限度食数を超えての提供は、
現状対応している

調理委託事業者の状況②

【令和6年度平均注文数】（3月末時点）

- ・ 北部10校 1,580食（一番多いときで2,103食）
- ・ 南部9校 1,870食（一番多いときで2,592食）

旧南部収集事務所跡地の紹介



現在の建物（閉業中）



旧南部収集事務所

所在	藤沢市稲荷417
土地面積	5,266.55㎡
調理食数	最大 6,000食
稼働時期 (予定)	令和11年9月～

各中学校の昼食時間

学校名	4時間目-昼食時間(分)	昼食時間(分)	昼休み(分)	昼休み-5時間目	合計
1_第一中学校	5	15	20	5	45
2_明治中学校	5	15	20	10	50
3_鵜沼中学校	5	20	15	5	45
4_六会中学校	0	20	25	0	45
5_片瀬中学校	5	15	20	5	45
6_御所見中学校	5	15	20	5	45
7_湘洋中学校	5	15	20	5	45
8_長後中学校	5	15	20	5	45
9_藤ヶ岡中学校	5	15	20	5	45
10_高浜中学校	5	15	20	5	45
11_善行中学校	10	15	15	5	45
12_秋葉台中学校	5	15	20	5	45
13_大庭中学校	10	15	15	5	45
14_村岡中学校	10	20	20	5	55
15_湘南台中学校	5	15	20	5	45
16_高倉中学校	5	15	20	5	45
17_滝の沢中学校	5	15	20	5	45
18_大清水中学校	0	25	20	5	50
19_羽鳥中学校	5	15	20	5	45

学校給食の実施状況(児童生徒数ベース)

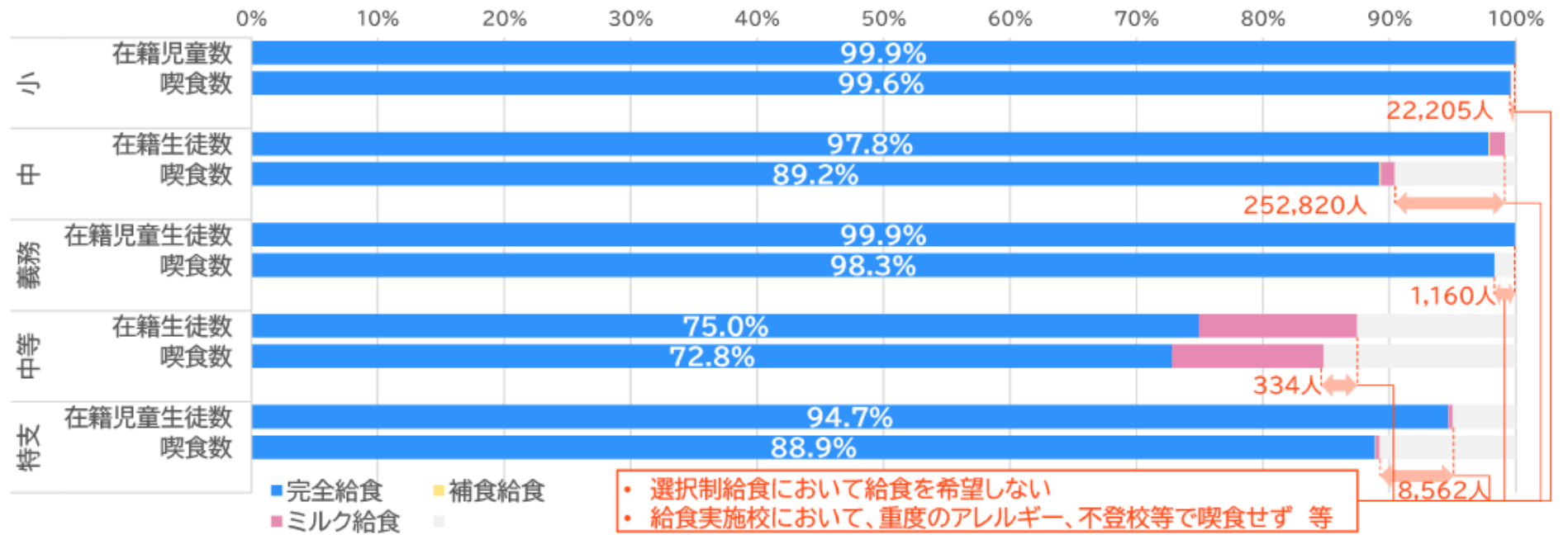
- 完全給食の実施率(在籍児童生徒数ベース)は、公立学校では、小学校99.9%、中学校97.8%、特別支援学校94.7%である。
- ただし、喫食数ベースでは、小学校99.6%、中学校89.2%、特別支援学校で88.9%であり、給食実施校においても、約285,000人(夜間定時制高校を除く)が給食の提供を受けていない。これは、重度のアレルギー等により、弁当を持参している児童生徒が存在するほか、一部の自治体で、中学校を中心に選択制の学校給食を実施しているためである。

完全給食の実施率(在籍児童数ベース)

(%)	全体	国立	公立	私立
小学校	99.2	98.3	99.9	44.5
中学校	90.0	19.0	97.8	5.8
義務教育学校	99.7	100.0	99.9	0.0

(%)	全体	国立	公立	私立
中等教育学校(前期課程)	56.9	0.0	75.0	19.4
特別支援学校	94.3	93.5	94.7	39.6
夜間定時制高校	22.1	-	21.6	93.1

公立学校の完全給食の実施率及び在籍児童生徒数と喫食数との比較



政令指定都市の給食実施状況

市名		実施方式
札幌、さいたま、浜松、岡山	全員制	自校式
仙台、千葉、川崎、静岡、福岡、熊本		センター方式
大阪、北九州		自校式・親子方式
堺		センター方式（令和7年6月から）
神戸		民間調理施設方式、親子方式、 デリバリー方式 の併用
広島		自校調理方式、給食センター方式、 デリバリー方式 の併用
横浜	選択制	デリバリー方式（汁物のみ食缶） （令和8年度から全員給食移行）
相模原		デリバリー方式、センター方式 （令和8年度からセンター方式で全員給食移行）
新潟、名古屋、京都		デリバリー方式（京都市は令和10年度以降セン ター方式で全員給食移行）

県内の給食実施状況

選択制デリバリー方式 (7市1町)	横浜市 (R8年度全員制移行予定) 相模原市 (R8年度全員制移行予定、現在は学校ごとにデリバリーとセンターの併用) 鎌倉市 茅ヶ崎市 (R7年5月から全校実施開始) 座間市 伊勢原市 藤沢市 湯河原町 (全員給食開始までの間 (時期未定))
全員給食 (11市10町) 食缶方式	川崎市 横須賀市 厚木市 大和市 平塚市 三浦市 逗子市 海老名市 小田原市 秦野市 南足柄市 葉山町 寒川町 中井町 大井町 松田町 山北町 愛川町 二宮町 開成町 箱根町
ミルク給食 (2町)	大磯町 (選択制導入後中止) 真鶴町 (公約では全員制給食)

給食費無償化の国の動向

2025年2月25日の国会にて、石破首相より「給食無償化につきましては、まずは小学校を念頭に、地方の実情等を踏まえ令和8年度（2026年度）に実現する」との答弁がありました。

また、中学校給食の無償化についても「できる限り速やかに」という方針が出されています。



給食無償化
の方針が示
された場合

中学校の全員制給食を検討せざるを得ない
その状況にも対応できる体制の構築も必要

藤沢市中学校給食検討委員会について

○検討内容

どのような実施方式が本市にふさわしいのかについて、教育的観点に実現性等を加味して、調査審議する。

・選択制か、全員制か、原則給食か

方針	給食方式
選択制	デリバリー方式6,000食（調理委託は終了）
全員制又は原則給食	デリバリー方式6,000食+デリバリー方式（調理委託）4,000食
全員制又は原則給食	食缶方式6,000食+デリバリー方式（調理委託）4,000食
全員制又は原則給食	食缶方式6,000食+自校方式又は親子方式4,000食
全員制又は原則給食	自校方式又は親子方式10,000食
全員制又は原則給食	食缶方式6,000+食缶方式4,000食

検討スケジュール

年度	時期	内容
令和7年度	5月30日（本日）	第1回検討委員会 ・ 藤沢市中学校給食検討委員会について ・ 本市の中学校給食の状況について ・ アンケートの実施について
	7月下旬	第2回検討委員会 ・ アンケート結果報告、意見集約
	9月上旬	第3回検討委員会 ・ 実施方式等の提案、検討
	10月	第4回検討委員会 ・ 結果報告

藤沢市中学校給食アンケート（生徒） 集計結果

回答数：7,131人

Q1どの中学校に通っていますか？	(人)
第一	609
明治	195
鵜沼	669
六会	574
片瀬	246
御所見	366
湘洋	240
長後	335
藤ヶ岡	682
高浜	290
善行	340
秋葉台	319
大庭	397
村岡	402
湘南台	172
高倉	201
滝の沢	481
大清水	144
羽鳥	469

Q2何年生ですか？	
1年生	2,727
2年生	2,266
3年生	2,138

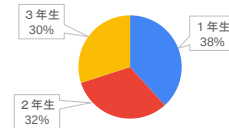
Q3中学校給食を利用したことはありますか？ (牛乳のみの利用を除く)	
はい	3,948
いいえ	3,183

Q4現在給食を利用していますか？ (牛乳のみの利用を除く)	
はい（毎日、ずっと予約にしている）	1,966
はい（ときどき利用している）	1,559
いいえ（全く利用していない）	423

Q5中学校給食を利用する理由は何ですか？	多い順
⑤弁当を用意する負担を減らせるから	2,580
⑥学校に持っていく荷物を減らせるから	1,512
②栄養バランスがいいから	1,060
①おいしいから・好きな料理が出るから	989
⑧食べたい日を選んで注文できるから	809
⑨値段が安いから	655
③温かいから（ごはん・汁物）	576
④量がちょうどいいから	322
⑦周りに利用している人が多いから	196

Q20学校給食についてどのように感じていますか（1つだけマークしてください）	
①満足	1,266
②どちらかといえば満足	1,637
③どちらかといえば不満	453
④不満	169

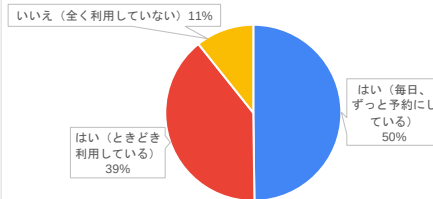
Q2何年生ですか？



Q3中学校給食を利用したことはありますか？

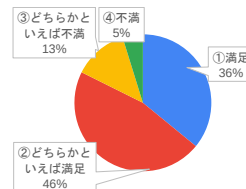


Q4現在給食を利用していますか？



Q5「その他」で回答があったものから抜粋

食べたいから
朝練でお弁当が間に合わないから
弁当を忘れたから
特に理由はない



Q21満足している点を選んでください（3つまで選べます） （Q20で満足・どちらかといえば満足を選んだ方へ）		多い順
①栄養バランス		1,385
②おいしさ		1,239
⑧家庭からの弁当と選択ができること		624
③献立の種類		614
⑤値段		584
④量		484
⑨1日単位で注文ができること		407
⑦安全性		378
⑩ランチボックスでの提供		124
⑥食べる時間		99
⑪特になし		286

Q22満足していない点を選んでください（3つまで選べます） （Q20不満・どちらかといえば不満を選んだ方へ）		多い順
②おいしさ		447
⑥食べる時間		185
④量		181
③献立の種類		105
⑦安全性		34
⑩ランチボックスでの提供		27
⑤値段		25
①栄養バランス		15
⑧家庭からの弁当と選択ができること		4
⑨1日単位で注文ができること		2
⑪特になし		21

Q23中学校給食を利用しない理由をひとつ選んでください。 （Q31いえを選んだ方へ（現在中学校給食を利用していない人）		多い順
④家から持参の弁当を食べたいから		2,003
⑤献立や味が好みではないから		340
⑥量が多くて食べきれないから		269
⑨注文や受取が面倒だから		220
⑧昼食時間が短くて食べきれないから		175
③全員給食ではないから		137
①試食をする機会がないから		133
⑦おかずが冷やされているから（食中毒防止のため冷ましています）		105
⑩食物アレルギーがあり食べられないものがあるから		49
②利用している人が少ないから		32

Q24給食を利用している人の割合が増えたら利用してみたいですか。		
はい		943
いいえ		2,663
無回答		3,525

Q25利用するタイミングがあるとしたらどんな時があると思いますか？		
親がお弁当が作れない時		550
弁当を忘れたとき		411
無回答		4,431

Q26持参したい理由を聞かせてください （Q23で「家から持参の弁当を食べたい」と選択した方へ）		多い順
②家で弁当を用意してくれるから		1,410
④量を調整できるから		924
③好きなものを食べられるから		842
①利用している人が少ないから		45
無回答		5,176

Q31中学校給食に意見・要望があればおしえてください		
時間が短い		87
温度		151
量		88
多い・少なめに		77
なし・特になし		454
無回答		5,142

Q21「その他」で回答があったものから抜粋	
おかわりできるから	
ご飯と汁物が温かいから	
ほとんど全て	
荷物が少なくてすむから	
お弁当を用意しなくてすむから	

Q22「その他」で回答があったものから抜粋	
米がやわらかい	
野菜が多い	
肉が多い	
ハンバーグまずい	
おかずがつめたい	
汁物の味が薄い	
見た目が悪い	
休んだ日に返金されないこと	

Q23「その他」で回答があったものから抜粋	
好きな食べ物がない	
美味しくないから	
おいしくないと思うから	
容器が汚れていそうだから	
匂いが嫌だから	
申込方がわからないから	
金額が高いから	
献立の写真がまずそうだから	
宗教上の理由	

Q25「その他」で回答があったものから抜粋	
美味しくなったとき	
野菜が入っていないとき	
量が少なくなったとき	
小学校のような給食になったら	
アレルギーを克服したとき	
夏の暑い時期	
全員給食になったとき	
試食する機会があったら	

Q26「その他」で回答があったものから抜粋	
自分で作りたいから	
好き嫌いがあるから	
母のお弁当が好きだから	

（全員へ）
Q31中学校給食に意見・要望があればおしえてください
（自由記述）

以下のような回答がありました。

献立について 83件
バリエーションを増やしてほしい
揚げ物がもう少し少なくしてほしい
小学校のときに出ていたメニューを出してほしい
小学校にあった飲み物セレクトを実施してほしい

温かさについて 20件
前年度より温かく美味しくなった
おかずも温かくしてほしい

量について 44件
米に小盛り、普通盛り、大盛り、があると嬉しい
おかずの量の少なめを作って欲しい
もう少しおかずを増やしてほしい

味について 59件
味付けを濃くしてほしい
ハンバーグを改善してほしい
ごはんが美味しくない
味噌汁が美味しい
盛付をきれいにしてほしい

時間について 5件
給食時間が短い
給食の開始時間が遅い

その他 95件
給食室を作ってほしい
給食を頼んでない人も余った分を食べられるようにしてほしい
おかずだけ、汁だけで頼めるようにしてほしい
汁物の容器がこぼれやすいので改良してほしい
無償化の全員制給食にしてほしいです
一日前に予約とかできるようにしてほしい
アナログでも申し込みできるようにしてほしい
イスラム教の人たちにも給食を
美味しいのでぜひ中学校給食を続けてほしい
満足しているのでこれからも続けてほしい

藤沢市中学校給食アンケート（保護者） 集計結果

回答数：3,077人

(WEB：3,066人、紙：11人)

Q1お子様はどの中学校に通っていますか？	(人)
第一	209
明治	188
鶴沼	227
六会	225
片瀬	135
御所見	130
湘洋	174
長後	147
藤ヶ岡	269
高浜	136
善行	101
秋葉台	103
大庭	137
村岡	216
湘南台	169
高倉	123
滝の沢	147
大清水	97
羽鳥	144

Q2お子様は何年生ですか？	
1年生	1,251
2年生	1,036
3年生	790

Q3中学校給食を利用したことはありますか？ (牛乳のみの利用を除く)	
はい	2,026
いいえ	1,051

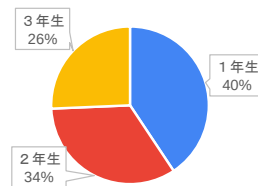
Q4現在給食を利用していますか？（牛乳のみの利用を除く） ※Q3で「はい」を選択した方	
①はい（毎日、ずっと予約にしている）	1,065
②はい（ときどき利用している）	790
③いいえ（全く利用していない）	171

Q5中学校給食を利用する理由は何ですか？（複数選択可） ※Q4で「はい」を選択した方	多い順
①弁当作りの負担が軽減されるから	1,725
③栄養バランスがいいから	1,175
⑨値段が安いから	654
⑦食べたい日を選んで注文できるから	544
④温かいから（ごはん・汁物）	518
⑧家庭の事情で時間に余裕がないため	458
②子どもが希望しているから	383
⑩注文が簡単だから	343
⑤試食会で食べてみて好印象だったから	195
⑥周りで利用している人が多いから	46
⑪特になし	5

Q6今後も給食を利用したい(させたい)ですか？	
①はい	1,836
②いいえ	19

Q7中学校給食を利用しない主な理由は何ですか？（複数選択可） ※Q3及びQ4で「いいえ」を選択した方	多い順
④子どもが家から持参の弁当を希望しているから	825
⑨急な注文、キャンセルができないから	440
⑧予約や入金が面倒だから	364
②全員給食ではなく選択制だから	317
⑤子どもの好みに合わないから	264
⑦時間がなく食べきれないから	235
⑪他の家族分の弁当も作っているから	173
⑥量が多くて食べきれないから	168
①注文している人が少ないから	102
③家で用意した弁当を子どもに食べさせたいから	98
⑩試食会や説明を聞く機会がなかったから	29
⑫食物アレルギーがあるから	23
⑬特になし	7

Q2お子様の学年



Q3中学校給食を利用したことはありますか？



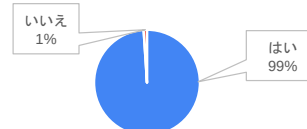
Q4現在の給食利用状況



「その他」で回答があったものから抜粋

就学援助で利用
 特に暑い季節は衛生面が心配だから
 荷物が減る
 良い食材を使っていると聞いた
 市の栄養士さん監修という信頼
 小学校の給食から馴染みのあるメニュー
 食器洗いの軽減
 持参弁当より多く食べられる
 朝練の時はお弁当を作る時間がない
 去年より美味しくなったため
 値段が安い

Q6今後も利用したい(させたい)ですか？



「その他」で回答があったものから抜粋

子どもが弁当持参を希望したため
 ごはんがおいしくない
 給食は食べたくないと言っているから
 家計の節約のため・金額面
 給食時間が少ないため
 学級閉鎖など学校側の休みの時に返金等の納得した対応がないため
 美味しいと云うウワサを聞かない
 凍っているかと思う程冷たくて食べられない
 質のよい食材・オーガニックにこだわりたい
 その日に食べたい物と量にできるから
 早めに注文しなければならないから
 容器が臭う
 量が少ないから足りない
 注文忘れなどが怖い
 クラブチームに所属していて体を大きくするためのメニューが必要
 先生がまずいと言っているのを聞いて、本人が頼みたくないと思ったから
 衛生面が気になるから

Q8ID・パスワードはお手元にあり、いつでも予約やキャンセルをすることができますか？

①はい	2,251
②いいえ	826

(全員へ)

Q9予約システムについて、不便であったり分かりにくい点がありますか？

(自由記述)

以下のような回答がありました。(抜粋)

申し込み締め切りについて

締め切りが早い
当日もしくは前日まで予約可がよい

予約状況について

予約確認がしづらい
予約・キャンセル方法が分からない

チャージ・入金システムについて

チャージシステムが面倒
残高が足りず予約がキャンセルになっていた
残高不足時に通知がほしい
口座から引き落とされる形がよい
クレジットカードの登録が不便

システム全般

兄弟でログインが別なのが不便
システム全般分かりづらい

サイトの表示について

サイトが全体的に見づらい
予約状態の表示が見づらい

その他

給食がない日が分かりにくい
主菜だけでなく全体の写真を見たい(予約画面写真)
不明点を直接コールセンターに連絡したらよく分かった
慣れれば分かりやすく、使いやすい

ID・パスワード

IDの簡易化
毎回ID・パスワードの入力が面倒

Q10ごはんの「小盛(少なめ)」があったら利用させたいですか？

①はい	1,351
②いいえ	1,726

Q11中学校の給食で「おかわり分」があることを知っていますか？

①はい	1,378
②いいえ	1,699

Q12中学校の配膳室に「予備食」があるのを知っていますか？

①はい	1,313
②いいえ	1,764

Q13毎月家庭に配布している献立表(白黒)は見ていますか？

①はい	1,802
②いいえ	1,275

Q14アレルギー詳細献立表は見ていますか。

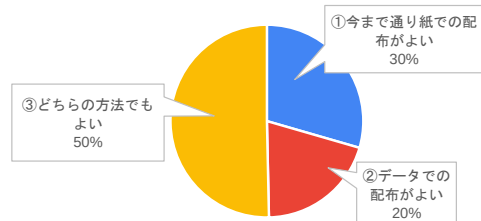
①アレルギーがないので見ていない	2,300
②活用している	117
③活用していない(存在を知らなかった)	637

Q15今後の配布方法について、よいと思うものを選んでください

※Q13で「はい」を選択した方

①今まで通り紙での配布がよい	907
②データでの配布がよい	621
③どちらの方法でもよい	1,549

Q15今後の献立表(白黒)の配布方法について



(全員へ)
Q16中学校給食にご意見・ご要望があればおしえてください
(自由記述)

以下のような回答がありました。(抜粋)

味について

小学校給食と比べると美味しくないと言っている
シンプルな味付けにしてほしい
味が薄い
魚の献立の時生臭い
ハンバーグがおいしくない

量について

ごはんの小盛・大盛対応希望
おかずのみ注文希望

自校式・センター方式

自校式給食希望
小学校と同じ食缶方式(センター方式でもよい)

全員給食

栄養面・食育を考え、全員給食希望
大半が給食を頼んでないと子供が給食にしてくれない
好き嫌いがあっても食べる機会があるため
全国的に中学校給食が当たり前なのに選択制なのはおかしい

システムについて

システムの簡易化希望
アプリなどにして開かなくても通知状況が分かるようにしてほしい
締め切り日のお知らせメール希望

予約・キャンセルについて

当日に申し込みできるとよい(体調不良時活用のため)
体調不良で休む時もキャンセルできるようにしてほしい
学級閉鎖の場合はキャンセルにして返金してほしい
長期休み明けなどは予約を忘れやすい

喫食時間について

食べる時間が15分しかないのは問題だと思う
15分しかないためもっと食べたいのに食べきれない
昼休みも使って食べていいと言われても食べ辛いため結局食べられない
早食いになってしまいうるに噛まずに食べることになっているらしい
お弁当でも15分は厳しい
15分で食べれる量にするために給食ではなくお弁当にしている
食べる時間がないため、おなかをすかせて帰ってくる

献立内容について

料理の種類のバリエーションを増やしてほしい
揚げ物が多い
牛乳以外の飲み物の日がほしい

温度について

おかずも温かくしてほしい
冷たいせいで美味しくないときがある
冬だと汁物も冷たい

その他

アレルギー食の対応をお願いしたい
おかわり分、予備分の食品ロスが気になる
無償化してほしい
献立写真の見た目がよくない
学校行事の関係でお昼無しの日をなくしてほしい
献立表の紙配布は続けてほしい
オーガニック、無添加の食材を使った給食を希望
ソフトめんの器を大きくしてほしい
試食会の回数を増やしてほしい

藤沢市中学校給食アンケート(教職員) 集計結果

回答数:321人

Q1在籍校を教えてください。

第一	38
明治	7
鶴沼	23
六会	23
片瀬	18
御所見	18
湘洋	12
長後	18
藤ヶ岡	33
高浜	15
善行	11
秋葉台	10
大庭	2
村岡	19
湘南台	8
高倉	24
滝の沢	17
大清水	13
羽鳥	12

Q2中学校給食を利用したことはありますか？

(牛乳のみの利用を除く)

はい	238
いいえ	83

Q3現在給食を利用していますか？

(牛乳のみの利用を除く)

※Q2で「はい」を選択した方

はい(毎日、ずっと予約にしている)	146
はい(ときどき利用している)	43
いいえ(全く利用していない)	132

Q4中学校給食を利用する理由は何ですか？(3つまで選べます)

※Q3で「はい(毎日、ずっと予約にしている)(ときどき利用している)」を選択した方

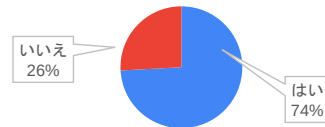
多い順

⑨値段が安いから	132
⑥家で弁当を用意なくていいから	131
③栄養バランスがいいから	81
⑦学校に持っていく荷物を減らせるから	32
①生徒が食べているものを知るため	31
④温かいから(ごはん・汁物)	18
⑧食べたい目を選んで注文できるから	14
②おいしいから・好きな料理が出るから	14
⑤量がちょうどいいから	4
⑩特になし	2

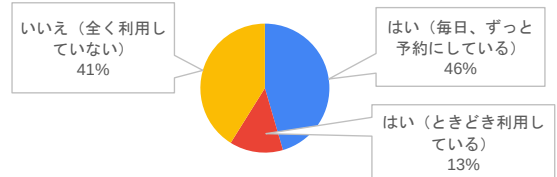
Q5学校給食についてどのように感じていますか

満足	96
どちらかといえば満足	170
どちらかといえば不満	39
不満	16

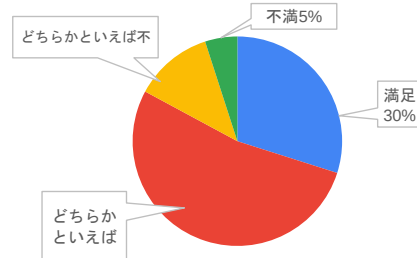
Q2中学校給食を利用したことはありますか？



Q3現在給食を利用していますか？



Q5学校給食についてどのように感じていますか



Q6満足している点を選んでください（3つまで選べます） ※Q5で「満足」「どちらかといえば満足」を選択した方		多い順
⑤値段		196
①栄養バランス		175
③献立の種類		77
⑨1日単位で注文ができること		61
②おいしさ		47
⑧家庭からの弁当と選択ができること		28
⑥安全性		26
④量		22
⑩ランチボックスでの提供		14
⑪特になし		8
⑦食べる時間		2

Q7満足していない点を選んでください（3つまで選べます） ※Q5で「不満」「どちらかといえば不満」を選択した方		多い順
②おいしさ		31
④量		15
③献立の種類		9
⑩ランチボックスでの提供		9
⑦食べる時間		4
⑤値段		2
⑧家庭からの弁当と選択ができること		2
①栄養バランス		1
⑨1日単位で注文ができること		1
⑥安全性		0
⑪特になし		3

Q8現在、クラス担任を受け持っていますか？		
はい		147
いいえ		174

Q9給食時間について伺います。 前年度の生徒向けアンケートでは「昼食時間に食べきれない」という意見がありましたが、実際のクラスの状況はいかがでしょう。		
※Q8で「はい」を選択した方		
①ほとんど食べきれている生徒が多い		96
②食べきれない生徒が多い		41

Q10「おかわり分」のごはんについてクラスの状況はいかがですか？		
①余っていることが多い		82
②ちょうどよい		54
③足りない		11

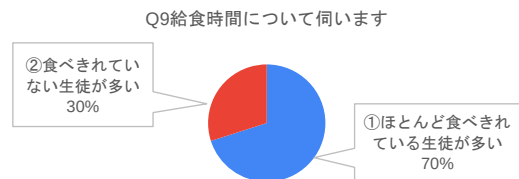
Q11「おかわり分」の汁物について クラスの状況はいかがですか？		
①余っていることが多い		60
②ちょうどよい		65
③足りない		22

Q12前年度のアンケートでは「ごはんの小盛（少なめ）がほしい」という要望 がありましたが、クラスの状況としてはあったほうがよいと思いますか？		
①思う		95
②思わない		51

Q13中学校の配膳室に「予備食」があるのを知っていますか？		
①はい		316
②いいえ		5

Q6「その他」で回答があったものから抜粋	
薄味で助かります 職員室に弁当をとりに行かなくて良い たびたび問題が生じる。（おかずの数が減るなど） おかわり分など、残飯を出している罪悪感を感じなければならないこと 予備食あると言っても、食数が少ないので、買えるかわからない。	

Q7「その他」で回答があったものから抜粋	
糖分、ニンニクの使用量、素材 ソースや天ぷらのつけだれが始めからかかっていること 見た目 冷えている 容器から中身がこぼれていることが多すぎる（生徒の机が汚れる） チャージ、まとめ払いが必須なところ 前日の注文や取り消しができないこと、注文×切の早さ。 自分で食べる物を選べないストレスを感じなければならないこと 購入や事故の報告にフルネームを記載すること	



Q9「その他」で回答があったものから抜粋	
1年生の最初が厳しいが、上級生になり慣れてくると問題ない メニューによって食べきっていない生徒がいる 休み時間にも食べられるようにしているが、残している 食べきれない生徒もいる 学校の昼食時間が短い	

Q12「その他」で回答があったものから抜粋	
小盛りがあると配膳の手間や間違いが起こりやすくなる	

Q14現在献立によりスプーンのみの日を設定しています。ご意見をお聞かせください。	
①問題ない	247
②スプーンのみでは食べづらい日があるので、箸も付けてほしい	55

Q15スプーンで食べづらい献立は何ですか。 ※Q14で「スプーンのみでは食べづらい日があるので、箸も付けてほしい」を選択した方	
種類	
カレー等の日に出ている惣菜	
主菜以外のもの	
ヒレカツ	
魚のフライ　ハムカツ　豚かつ　鯖の塩焼き	
ポイルウインナー　鯖の照り焼き	
ほうれん草や白滝など、細くて長いおかず	
ポロポロと崩れるタイプのおかず等	
同じスプーンでデザートを食べることに抵抗がある	(抜粋)

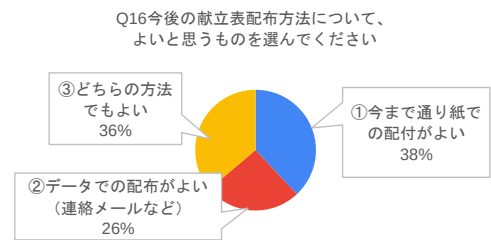
Q16今後の献立表配布方法について、よいと思うものを選んでください	
①今まで通り紙での配付がよい	122
②データでの配布がよい(連絡メールなど)	83
③どちらの方法でもよい	116

Q17中学校給食に意見・要望があればおしえてください (自由記述)	
以下のような回答がありました。	
味・献立について	
主食はごはんがよい	
パンの日はなくてよい	
めんの日がうれしい	
米がおいしくない	
セルフでご飯と混ぜる献立は本当にやめてほしい(チキンライスなど)	
セルフでご飯と混ぜる料理、自閉傾向のある生徒は混ぜることができない(カレーやハヤシライス)	
てんぶらのタレが少ないので増やしてほしい	
魚系の料理は臭みが残っていておいしくない	
もう少し子どもも喜ぶようなメニューを増やしてほしい	
栄養だけ考えているメニューに偏っているというイメージ	
汁物が付いているのが大変ありがたい	
汁物はいらない	
味や量が均等でない日がある	
野菜も多く、味も改善されているのでよいと思う	
デザートを増やしてほしい	
ジュースなど出してほしい	
セレクトドリンクがあると良いと生徒から声がある	
チキンばかり続くのが飽きる　魚系も増やしてほしい	
肉か魚が選べるメニューになるとうれしい	
果物の日が増えるとうい	
糖質過多ではと思うメニューがある	
あたたかいおかずがよい	
おかずの内容が片よりすぎている	

システム・配布物について	
残高不足で給食が届かないという情報を保護者にメールで通知してほしい(生徒に届かないというのを避けたい)	
残高不足の際の仮予約を廃止してほしい(予約完了と勘違いしやすい為)	
オレンジのはがきは、いる・いらないが選べるとよい	
オレンジのはがきの配布が手間	
ペーパーレスを徹底してほしい	
給食による教員側の作業増、負担を感じる(問題が起きた際に手紙を配布する等)	
保護者からの問い合わせに対し、給食課を案内すればよいのは助かる	

その他	
昼食時間(片付けの時間)にもう少しゆとりをもたせてほしい	
価格高騰しないようにお願いしたい	
支援級用に介助皿を用意してほしい	
検食に料金が発生するのは疑問(選択制の給食なので給食を選択したくない校長もいる)	
利用したことがないのにアンケートは不要	
配膳の手間と給食費の徴収では教員の負担にならないような方向で検討してほしい	
藤沢市においては、選択制デリバリー方式で良い	
他市町のやり方に左右されず、藤沢市のスタンスを堅持すべき	
もちろん市民や保護者・議会などに市教委が説明責任を果たし理解されるように努力していくことは必要である	
食育の観点からの改善を望む	
異物が混入がなくなる　機械的な作業が多いのかも知れないが、最後は人の目で確認をするようにしてほしい	
牛乳パックが手で開けやすい構造になっていると、ストローの削減に繋がるのではないかと	
おかずをあたたくしてほしい	

Q14「その他」で回答があったものから抜粋	
スプーンだけ、箸だけの日の設定が、食べにくい日がある	
箸を希望する生徒が一定数いる	
大盛りプラスのものに、スプーンではたべづらいものがある	
食べづらい日がありますが、それで手間やコストが削減できるなら我慢できる	
スプーンが不要と思われるのについている	
選択できるようにつけておいて欲しい	



ごはん・給食の量について	
ごはんの少盛りがほしい	
ごはんの大盛りがほしい	
給食の総量が多いと感じる　時間内に食べきれていない生徒が多い	
容器について	
ふたがロックできるとよい(おかずをこぼしてしまうことがあった)	
汁の蓋が緩くなって中身がこぼれていたりすることがある	
はしの使用前・使用後の入れ物を変えた方がよいのではないか	
おかわりの数について	
おかわりがあっても消費できない　おかわりは不要	
おかわりは残食につながる	
職員室のおかわりはいらないと思う	
予備食について	
予備食の普通を増やしてほしい(4食→8食へ)	
大規模校への予備食配布数を多くしてほしい　対応できないときがある	
予備食は不要(フードロスの観点)	
食数締め切りについて	
注文・キャンセル締切が早い	

藤沢市 中学校給食についてのアンケート

- ・実施時期 2025年6月23日～7月11日
- ・対象者 市内全中学生とその保護者、市内全中学校教諭
- ・実施方法 Google アンケート

資料7

①週の半分以上、昼食に何を食べていますか

- 1 給食（デリバリー給食） 2 家庭で作ったお弁当 3 市販のお弁当 4 市販のおにぎり、パン

②給食を食べている理由を教えてください。（複数回答可）【3つ以内で選んでください】

- 1 おいしいから 2 栄養バランスがいいから 3 持ち物が軽くなるから 4 便利だから
5 家族や友人などからすすめられたから 6 衛生的だと思うから 7 安いから 8 好きだから
9 家庭弁当を作る負担を減らしたいから

③給食を食べていない理由を教えてください。（複数回答可）【3つ以内で選んでください】

- 1 周りが食べていないから 2 好き嫌いがあるから 3 取りに行くのが面倒だから 4 食物アレルギーがあるから
5 家庭弁当を用意してくれているから 6 家の弁当等が好きだから 7 量が多いから 8 量が少ないから
9 おかずが冷たいから 10 おいしくなさそうだから

④味はおいしい（おいしかった）ですか

- 1 おいしい 2 ふつう 3 おいしくない

⑤「おいしくない（なかった）」主な理由を1つ教えてください。

- 1 苦手な食材が多いから 2 味が合わない（うすい、こい）から 3 おかずが温かくないから
4 調理加減が合わないから 5 好きな献立が少ないから

⑥ごはんやおかずの量はどうです(どうでした)か。

- (それぞれ対して) 1 おおい 2 ちょうどよい 3 すくない

⑦「給食」か「お弁当」を選択できる方式についてどう思いますか。

- 1 自由に選択できるのがよい 2 全員が給食を食べるのがよい 3 全員が弁当を食べるのがよい 4 どちらでもよい

⑧給食は「食缶方式」か「弁当箱方式」かどちらが良いと思いますか。

- 1 食缶方式がよい 2 弁当箱方式がよい 3 どちらでもよい

※食缶方式とはご飯や汁物を保温性の高い食缶に入れて各学校に給食を届ける方式です。温かいものは温かく提供できます。生徒が配膳する必要があります。(藤沢市の小学校給食と同じ方式です。)

弁当箱方式とはご飯と汁物、おかずが弁当箱に入って届けられる方式です。(藤沢市の中学校給食と同じ方式です。)

⑨今の給食で、改善されると良いと思うことは何ですか。(複数回答可)

- 1 味つけ 2 量の調整 3 汁物の回数 4 おかずの温度 5 給食時間の長さ 6 見た目(いろどり)
7 予約の締切期限や払い込みの方法

⑩今の給食で、何が改善されたら食べたい(食べさせたい)と思いますか。(複数回答可)

- 1 味つけが良くなったら 2 給食時間の長さが長くなったら 3 量が調整できるようになったら 4 おかずが温かくなったら
5 見た目(いろどり)が良くなったら 6 全員が食べるようになったら 7 注文の予約の締切期限や払い込みの方法が変わったら

⑪「栄養バランスが良いこと」や「安全安心であること」に加え、**藤沢市**の学校給食にさらに求めることは何ですか。

【3つ以内で選んでください】

- 1 おいしさ 2 食べる量の配慮 3 給食の準備時間が短く済む(帰宅時間や部活動等への影響が出ない)
4 食べる時間が十分にある 5 温かさ 6 アレルギーへの対応
7 注文のしやすさ 8 地場産や季節の食材を取り入れる 9 その他(自由記載)

⑫給食を通して知ったこと、学んだことは何ですか。

- 1 偏りがなく栄養バランスのとれた食事をする大切さ 2 みんなで楽しく食べることの大切さ
3 季節の旬のものや調理方法、献立のたて方など食材に関する知識 4 自然の恩恵や食に関わる人たちへの感謝の気持ち
5 日本行事食や地域の郷土料理、特産物などの食文化 6 特になし 7 その他(自由記載)

⑬家庭からみた給食のいい面は何ですか。

- 1 お弁当作りの負担がなくなる 2 年齢に応じた栄養バランスの良い食事がとれる 3 給食を通じて家族の話題が増える
4 献立表などを通じて家庭での日々の献立作りに役立つ 5 食事時のあいさつなどの食事マナーが身につく
7 その他(自由記載)